

# Bulletin 280

2019 夏号



## Annual Report 2018

COLONNADE

2019年度支部長活動方針／支部総会報告／特集：JIA 関東甲信越支部内のコンテスト／北海道支部

FORUM

改めて登録建築家を考える／温故知新／日本版CABEを考える／覗いてみました他人の流儀  
活動報告／わたしの愛用ツール



# 大掛かりな工事不要の排水圧送ポンプで トイレや洗面台などを簡単に設置

SFA Japan株式会社は、住宅や商業施設など、新たに水まわり設備を設ける際に便利な排水圧送ポンプユニットを製造・販売しています。SFAはSociété Française d'Assainissement (フランスの衛生会社)の略で、1958年にフランスで創業。石造の古い建物をリノベーションする文化のあるヨーロッパで成長し、現在では世界60カ国で累計1,000万台以上の販売実績があります。排水圧送ポンプとしての世界シェアは約80%以上と圧倒的で、バッキンガム宮殿など歴史的建造物にも採用されています。日本法人の立ち上げから携わっておられる、ゼネラル・マネージャーの荻野雄仁さんにお話をうかがいました。

## 建物にダメージを与えず 時間と費用もかけずに設置可能

当社の排水圧送ポンプは、排水を内径の細い管で受けて上に圧送するため、配管の勾配が取れない場所でも水まわり設備を設置することができます。床を上げたりという大掛かりな工事也不要で、建物を傷つけることなく時間も費用も抑えて新しくトイレやキッチン、洗面所などを設けることが可能です。

「サニアクセス3」は、戸建てでもマンションでも住まいにトイレをもう1台設置したい時に最適な機種で、一般的なトイレの後ろに取り付け可能です。トイレの排水がポンプの中に流れ込むとモーターが動き出し、流れ込んだ汚物とトイレットペーパーは回転刃により3~4秒で粉碎され、内径20~25mmの細い吐出管で圧送されます。吐出管は上に5m、横に100m引くことができ、逆止弁が付いているのでポンプ停止後も逆流しません。例えば、押入れをトイレにつくり換える場合、時間も費用もかかるのですが、これであれば1日で工事が終わりますし、費用も数十万円です。もちろん2階にトイレを新しく設置することもできます。

「サニスピードプラス」は雑排水用のポンプで、テナントビルなどの商業空間でシンクを増やしたい時に有効です。こちらはトイレ用と違い粉碎はせず、内径40mmの流入管で受けて、上に6m、横は70m圧送できます。

他にも、手洗器や空調機のドレン



「サニアクセス3」リフォーム例

処理に便利な最小サイズの「サニシャワープラス」や、中にポンプが2台内蔵されていて吐出量が多い「サニキュービック2 クラシック」があり、目的に合わせて選ぶことができます。

最近では、ヨーロッパでベストセラーの、ポンプとトイレが一体になった「サニコンパクトプロ」も取り扱うようになりました。日本メーカーの製品と同等の節水能力で、奥行きは日本製品最小の650mmよりも10cmほど小さい555mmです。狭い場所にトイレを新設したい場合に有効です。

## 住宅や商業施設など どこにでも簡単に水まわりを増設

日本でもリフォームやリノベーションが一般的になり、新たに水まわり設

備を設けるケースが増えてきました。

住宅では、ご高齢の方が部屋の近くにトイレが欲しくても、費用や大掛かりな工事を理由に諦めることも多いようですが、当社の製品なら好きな場所に水まわり設備を増設できます。また、近年、ビルの一室を保育園にするケースも多く、幼児用のトイレや手洗いを新設する際に使っていただく事例も増えています。

製品はトイレなど水まわりの裏に隠して設置することもできますし、紙おむつなど異物を流してしまった時にタンクからすぐに取り出せるというメリットから、あえて見える位置に設置する方もいらっしゃいます。

水まわり設備を増設する際は、ぜひ当社の製品の導入をご検討ください。



SFA Japan 株式会社 (エス・エフ・エー・ジャパン(株)) [www.sfa-japan.jp](http://www.sfa-japan.jp)

排水圧送ポンプを製造・販売。大きさやスペックの異なる5機種(2019年7月現在)を展開しています。簡単な配管工事で設置でき、認定修理店も全国にあります。

東京都中央区日本橋箱崎町20-3 箱崎公園ビル7F TEL: 03-5623-3151 FAX: 03-5623-3152

■製品についてのお問い合わせは、上記電話かFAX、またはメール(sales@sfa-japan.jp)でご連絡ください。

# CONTENTS

## Annual Report 2018

### 支部長挨拶

- 4 1年の活動を振り返って JIA関東甲信越支部 支部長 藤沼 傑

### 委員会活動報告

- |   |             |                |             |               |
|---|-------------|----------------|-------------|---------------|
| 5 | 総務委員会       | 広報委員会          | 建築相談委員会     | 保存問題委員会       |
| 6 | 苦情対応委員会     | 支部建築家資格制度実務委員会 | 都市・まちづくり委員会 | 建築・まちづくり委員会   |
| 7 | 災害対策委員会     | 国際事業委員会        | 環境委員会       | アーバントリップ実行委員会 |
| 8 | 建築セミナー実行委員会 | JIAトーク実行委員会    | 学生デザイン実行委員会 | 大学院修士設計展実行委員会 |
| 9 | 交流委員会       | 2018全国大会実行委員会  | 委員会一覧       |               |

### 部会活動報告

- |    |        |          |        |          |
|----|--------|----------|--------|----------|
| 10 | デザイン部会 | 都市デザイン部会 | 住宅部会   | メンテナンス部会 |
| 11 | 住宅再生部会 | 情報開発部会   | 建築交流部会 | 建築家写真倶楽部 |
| 12 | 再生部会   | ミケランジェロ会 | 金曜の会   | 学芸祭部会    |
| 13 | 部会一覧   |          |        |          |

### 地域会活動報告

- |    |        |        |        |       |
|----|--------|--------|--------|-------|
| 14 | 神奈川地域会 | 千葉地域会  | 埼玉地域会  | 茨城地域会 |
| 15 | 栃木地域会  | 群馬地域会  | 山梨地域会  | 長野地域会 |
| 16 | 新潟地域会  | 中野地域会  | 三多摩地域会 | 杉並地域会 |
| 17 | 新宿地域会  | 城東地域会  | 文京地域会  | 渋谷地域会 |
| 18 | 世田谷地域会 | 千代田地域会 | 中央地域会  | 城南地域会 |
| 19 | 城北地域会  | 港地域会   | 目黒地域会  | 地域会一覧 |

## COLONNADE

- |    |                            |                 |      |
|----|----------------------------|-----------------|------|
| 20 | 2019年度支部長活動方針              | ウィスト建築設計        | 藤沼 傑 |
| 21 | 2019年度支部総会報告               | 榎本建築設計事務所       | 榎本雅夫 |
| 22 | 特集：JIA関東甲信越支部内のコンテスト       |                 |      |
| 22 | コンペ・アワード・学生コンクール           |                 |      |
| 24 | 城東地域会「なりたて建築士のための設計コンペ」    | スタジオエイチー級建築士事務所 | 杉山英知 |
| 25 | 住宅部会「住宅部会賞 10宅選」           | 中村高淑建築設計事務所     | 中村高淑 |
| 26 | 北海道支部 正会員事務所のスタッフ向けに勉強会を開催 | ピーエス            | 弘田七重 |

## FORUM

- |    |  |                               |      |
|----|--|-------------------------------|------|
| 28 | 連載：改めて登録建築家を考える 第4回 実務訓練プログラムの実際                   | 近藤総合計画事務所                     | 近藤 昇 |
|    |  | ASCO,partners                 | 安達治雄 |
|    |  | 内野設計                          | 内野輝明 |
| 31 | 温故知新 師とコラボレーション                                    | 堀越英嗣 ARCHITECT 5 / 芝浦工業大学建築学部 | 堀越英嗣 |
| 32 | 温故知新 抱負を語る トリプルプロパティス                              | メグロ建築研究所                      | 平井 充 |
|    | 抱負を語る コミュニケーションデザイン                                | オイカ創造所 一級建築士事務所               | 及川洋樹 |
| 33 | 日本版CABEを考える 計画助成における専門家派遣制度／専門性の表示                 | 連健夫建築研究室                      | 連 健夫 |
| 34 | 覗いてみました他人の流儀 星野 尚氏に聞く タラセア技法で風景画を描き 木の面白さを伝えたい     | Bulletin 編集WG                 |      |
|    |  | 前田製管                          | 大島寛隆 |
| 36 | 活動報告 交流委員会 Aグループ                                   | サカイ                           | 菅井雅美 |
| 37 | 交流委員会 Dグループ  |                               |      |
| 38 | わたしの愛用ツール MAX中綴じ作成ツール / CROQUIS SS2 / ヴェネチアスケッチブック |                               |      |

## BACKYARD

- |    |         |        |       |
|----|---------|--------|-------|
| 39 | コラム 徒然に | 設計工房 悠 | 百瀬万里子 |
| 39 | 編集後記    |        |       |

- 2 パートナーズアイ SFA Japan株式会社 大掛かりな工事不要の排水圧送ポンプで トイレや洗面台などを簡単に設置

2018年度

## 1年の活動を振り返って



JIA 関東甲信越支部  
支部長  
藤沼 傑

2016年6月の総会にて支部長を拝命いたしまして、3年を終えました。この3年間、多くの会員の皆様からのご指導をいただき、感謝を申し上げます。

各委員会や地域会、部会等においてJIA会員の活動が活発に維持されており、高齢等による退会者数が多い中、若手を含めた2018年度新規入会者は、正会員31名、準会員9名、協力会員法人8社、個人1名であり、決して少ない数ではありません。この1年間も、この数値を少しでも増やすため、若手育成を最重要課題として活動してきました。

前半は、9月に同時開催されたアルカジア東京大会とJIA建築家大会2018東京の準備に多くの時間を費やしました。お陰様で、全国大会は大会登録793人、協賛88社と多くの協力をいただき、成功したと言えます。また、収支的にもバランスが取れた結果となりました。

この大会では若手育成を主眼に、品川区大井町駅前パブリックスペース設計コンペ開催を支援し、大会の時に公開審査により設計者を選定しました。参加登録は建築士事務所を開設していれば誰でも参加できることとしました。つまり実績がない若手にも公共工事の実務経験のチャンスを与えたこととなります。その結果、参加登録377者、応募案は227点提出がありました。その中から1次審査で5案を選択し、公開審査で金子貫介氏(あかるい建築計画)と斎藤信吾氏(同)、根本友樹氏(無所属)が当選しました。その後、設計レビューを業務として品川区よりJIAが受託し、合計3回実施しました。JIAがこのような発注者支援を業務として委託を受け、適正な設計者の選定および設計レビューができるという実績ができました。今後は少なくとも年1回は、実績を問わないコン

ペを開催していきたいと考えています。

情報が随時更新されるSNSの時代に対応するため支部ホームページを昨年の1月に改訂し、スマホでも見やすくわかりやすいものにしました。各種活動予定を告知するだけでなく、活動結果も報告できるWebにしています。活動したら報告するというのを会員の皆様がしてくださると「見える化」が促進され、より多くの人がJIA活動に興味を持っていただけます。

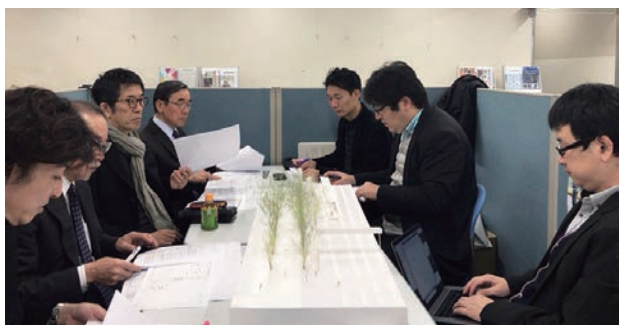
実際、社会のJIAへの関心は依然として高く、長野地域会学生卒業設計コンクールでは過去最大の57作品が集まるなど、各地域会の学生コンクールでは合計すると300人近くの学生が参加しています。さらには、「こども空間ワークショップ」は、2018年度、各地域会合計30回も開催され、合計1,800人以上の子どもがJIA建築家と活動しました。定例の個々の各種セミナーや講演会は、一般参加人数を合計すると数百人規模となると思われます。

このような活動を維持発展させるため、2018年度は地域サミットと委員長会議を3回合同開催し、課題の共有と対策の協議を重ねてきました。また、東京三会建築会議では、年始に東京都財務局との懇親会を開催し、主に新しい告示98号の運用について意見交換をしました。

私個人としては、アルカジアの建築家職能委員会ACPPの委員として、2018年度は合計4回の会議に参加し、各国の建築家状況の情報収集を務めました。

この1年間の皆様の活動、ありがとうございました。

(ウイスト建築設計)



基本設計レビュー状況



こども空間ワークショップ

## 総務委員会

委員長 榎本雅夫



会員の入退会審査、会員集会等イベント準備、規約類から予算計画に関わるものまで常任幹事会の協議のもと多岐にわたる課題を検討してきた。定例委員会では、退会届が提出されていないことを祈るような気持ちで毎月の会議に臨む。会員増強のためにも、JIAの意義をより深める活動とその周知の必要性を痛感する。

予算計画、特に次年度の収支を成り立たせるための方策には苦心する。試算によると会員減少による収入減は毎年150万円ほどに及ぶ。今年度は主に広報費の大幅な見直しにより補填したが、次年度では諸経費等支出の5%削減を計画している。各委員会が現在の活動を維持しながら費用を削減し続けることは容易とは思えない。財政状況が切迫していることを熟考した上で、具体的な方策に取り組むことが求められる。支部事務局員の給与規定は本部規定を準用することとなった。改めて雇用規定を見直すことは、働き方改革にも連係する。事務局に頼らずに自立的な活動を目指すこと、残業を抑制することが必要である。

新会員の集いでは、多くの委員会に活動紹介をしていただく機会を設けた。各々の持ち時間が短い点や、非公開型の行事であることのもったいなさを感じる点について、改善の余地があると感じた。今後は他の行事と合わせた複合的な交流の場としていきたい。  
(榎本建築設計事務所)

## 広報委員会

委員長 市村宏文



2018年度は、支部サイト(ホームページ)リニューアルに併せて、Webサイトと広報誌の連携を図る年となりました。

今年度の主な活動をご報告いたします。

- 毎月1回の委員会開催、『Bulletin』編集ワーキング、HPワーキングもそれぞれで月1回開催しています。
- 広報誌『Bulletin』の発刊。今まで掲載していた委員会・地域会の活動報告を支部サイトのWeb上で行うために誌面での報告を取りやめました。昨年より始まった法人協力会員を紹介するパートナーズアイは好評で、多くの掲載依頼がありました。新しいコーナーも始まり内容の充実を図りました。
- 支部サイト(ホームページ)は、毎月の委員会で運用状況を確認し、活用ができていない委員会・地域会等に積極的に活用するように案内をいたしました。サイト上での活動報告も充実してきましたので、『Bulletin』誌面上での報告を取りやめました。支部総会とアニュアル号の年度活動報告も今後支部サイト上で行うように準備を進めています。
- 一般向けのメルマガ配信を再開しました。これまでは毎月のイベント案内が中心でしたが、それらは支部サイトへの案内で済ませ、内容を『Bulletin』の掲載記事を中心にいたしました。配信も『Bulletin』発刊後とし、じっくりと読んでもらえる内容としました。  
(エルスト)

## 建築相談委員会

委員長 大竹司人



支部地域会相談室は、一般市民のための身近な建築相談窓口(無料相談)として下記5カ所の相談室で総計74名の相談員が対応しています。2018年度の相談件数は下記の通りです。( )は昨年度の数字です。

相談室	一般相談	トラブル相談数	相談件数	現地調査数
首都圏	35 (44)	92 (112)	127 (156)	15 (25)
神奈川	22 (38)	15 (9)	37 (47)	2 (3)
千葉	0 (2)	4 (4)	4 (6)	0 (0)
埼玉	7 (7)	71 (53)	78 (60)	2 (2)
群馬	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	64 (91)	182 (178)	246 (269)	19 (30)

全体の相談数246件のうち64件が一般相談、182件がトラブル相談でした。トラブル相談は全体の74%を占めています。  
(委員会の活動) JIA建築相談会議では5月にWeb会議を行い、9月15日の全国大会では建築相談全国会議を開催。

(公財)住宅リフォーム紛争処理支援センターおよび東京都消費生活総合センターと建築相談の連携協力を継続しています。  
(WGの活動) セミナー WGとAG(アーキテクツガーデン)WGは共同で6月に「リフォームトラブル/取り組みと解決に向けて」をテーマにセミナーを開催。研修WGは11月にJIA館にて研修会(参加30名)を開催しました。  
(設計工房大竹建築事務所)

## 保存問題委員会

委員長 窪寺弘行



日本の都市はどこへと向かい、何を後の世代に伝えることができるのだろうか。都市の経済的効率化という国家的方針の下にあって、個別の建築が持つ歴史的、文化的、都市景観の価値が顧みられることは、ますます減少傾向にあると思われます。

保存問題委員会では、「保存は未来への創造である」―「保存」と「創造」とは同義である―と考えており、古い建築物の保護といった狭義の「保存」ではなく、サステナブルな都市環境の形成を主題としてとらえ、活動しています。特にモダニズム建築において取り壊しが無造作に進む現在の状況下は、取り壊しを契機に提起される保存問題が、何をわれわれに問いかけているのかを見つめ直す良い機会でもあります。2018年度は、JR原宿駅木造駅舎保存要望書の提出、要望書提出後のフォローアップとして「衆議院憲政記念館(旧尾崎記念会館)シンポジウム(DOCOMOMO主催、JIA後援)開催協力、葛西臨海水族園パブコメ質疑要望意見書提出、童画家・武井武雄生家(長野県 江戸時代民家)解体に係る公募型プロポーザルコンペ推奨提案、保存再生会議関係者との意見交換等を行いました。保存問題は一般市民をも取り込んだ活動が重要と考えられ、その意味で今回シンポでDOCOMOMOのような組織と連携できたことは非常に有意義であり、要望書提出を契機に意見交換、シンポジウム等、話し合いの場を設ける上で有効なものと考えます。  
(窪寺弘行・建築計画事務所)

## 苦情対応委員会

委員長 福富啓爾



苦情対応委員会は、建築主や一般市民から本会会員が設計した建物や会員に係る苦情に対応する組織で、公益法人には不可欠なものです。当委員会は公正な立場で活動するため、総務委員会委員長、建築相談委員会委員長、住宅部会長を含む9名の専門的知見をもった委員で活動してきました。

今年度は幸いなことに会員への苦情はありませんでした。会員への苦情が申し立てられる前には双方が紛争状態であることが多く、円満な解決に至るには相当な時間を要します。本委員会は裁判所やADRではなく、仲裁や裁定をすることができないため、双方が協議しても解決に至らない場合は、被申し立て人に明らかな非があると推定される場合を除き、双方が相手の立場に立って解決するように促して協議は終了することになります。

今年度から本委員会に係る規程が変更されて、当該の法的手続きが開始されたとき、および他の機関による紛争解決手続きが終了し、または手続き中であるとき、裁判所による司法判断が確定したときなどは、原則苦情対応の受付を行わないことになりました。

今後建築家に対する苦情は複雑化することが予想され、当委員会としての対応方法の検討、および会員に対する広報を充実させる必要があります。  
(R設計社)

## 支部建築家資格制度実務委員会

委員長 寺山 実



当委員会は、「建築家資格制度」の運営のために支部認定評議会並びに本部建築家資格制度実務委員会の補佐を目的としています。活動は登録建築家の新規申請、更新申請、再登録申請の審査書類および更新要件等を確認した上で、支部認定評議会への審査資料作成です。評議会は議長：JIA会員そして東京弁護士会、建築士会連合会、日本建築学会および東京消費生活支援センターの各1名の委員、計5名により構成されています。

昨年度は実績評価認定による新規登録者数4名、更新者346名、再登録者2名の352名が支部認定評議会を経て本部認定評議会に報告、提出されました。現在は便宜上、大半が実績評価認定者ですが、本来の登録建築家は実務訓練認定者です。実務訓練は登録建築家のもと、700単位および期間3年以上の実務訓練を終了した上で、支部実務委員会または評議会による口頭試問(面接)を受けて総合的に審査され認定されます。実務訓練は実務訓練ノートに従い評価されます。2018年度末の支部認定評議会でも、体系的にまとめられている実務訓練ノートは実際に使って分かりやすく、また良い制度なので広く一般にも広報すべきではないかという意見がありました。一般の方々にとって一級建築士と建築家の違いは不明確です。登録建築家制度の認知度を上げる努力も大切です。  
(寺山建築工房)

## 都市・まちづくり委員会

委員長 亀井尚志



当委員会では、より良い景観・まちづくりを行うために以下のような活動を行っています。

まず、2009年より続けている土木分野(≒Built Environment)との協働活動として、建設コンサルタンツ協会との協働シンポジウム「誰が景観を創るのか」の第12回をJIA建築家大会東京に合わせて開催しました。今回は、ランドスケープアーキテクト連盟副会長の平賀達也氏に「グローバルに支持される、ローカルな価値づくり」というテーマの基調講演をしていただきました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、法政大学の福井恒明先生をコーディネーターに、平賀氏、前豊島区副区長の宿本尚吾氏、日本大学の岡田智秀先生、法政大学の赤松佳珠子先生といった土木系、建築系の方々により、①社会的期待を実現する一体の職能集団として何をやるべきか、②実際のプロジェクトでは目標の共有と価値観の総理解が必要となるが、その手掛かりは何かという2つの論点について議論されました。



基調講演の様子

その他建築五団体や地方自治体で構成する「景観まちづくり協議会」のWG委員会に委員を派遣し、自治体に向けたデザインレビューガイダンスの支援を行っています。

(三菱地所)

## 建築・まちづくり委員会

委員長 黒木正郎



当委員会は、まちづくりを通じた建築家の職域を広げる仕組みづくりを主目的として活動してきました。

2018年度もその方針に沿って、行政との良好な関係づくりの大切さを委員間で共有し、その具体化に向け一昨年に作成した「コンペ・プロポーザル支援リーフレット」の頒布に努めてきました。また、「良質な建築・美しいまちづくり萌芽事例シート」については引き続き事例収集を進めるとともに、内容の充実を図っているところです。

加えて、本年度は国土交通省住宅局市街地建築課の協力により進められている「景観デザインレビュー」について一般向けに編纂された3部構成のリーフレットを入手し、推進主体である「建築等を通じた良好な景観形成・街づくり推進協議会」の活動に協働する形を作りました。これは当委員会が一つの目標に掲げる「日本版CABE」の設立に深く関係するものであることから、2019年度以降も関係団体との協力体制づくりの柱として取り組もうと考えているものです。

勉強会としては、2019年2月8日に(株)アトリエ六曜社の湯浅剛氏を迎えて「エネルギーの小屋から考える未来」という題でオフグリッド建築・省エネルギー・まちづくりについてセミナーを開催しました。  
(日本郵政)

## 災害対策委員会

委員長 松下 督



2018年は地震・浸水被害の多い1年となりました。大阪府北部地震(6月)、北海道胆振東部地震(9月)、各地で台風などによる豪雨災害が発生し、多くの方が亡くなり、被害に遭われた方も大勢いらっしゃいました。

地震による建物の崩壊は多くは報告されていませんが、天井落下やエレベーターの停止・閉じこめ被害が報告されています。土砂崩れ、台風による浸水被害も多く発生しました。北海道胆振東部地震では、北海道全域でブラックアウト(大規模停電)が起り、今後の停電への備えも求められています。

JIA災害対策全国会議と協働し、各地区での応急危険度判定を行うメンバー派遣のサポートや、自治体の復興住宅などの建設に向けての仕組みづくりなどの情報共有を行い、JIAメンバーの活動を支援しており、2018年9月に開催されたJIA建築家大会2018東京で、「ポテンシャルを活かす/ストックの再評価」と題して全国会議(環境・保存・災害・まちづくり)合同シンポジウムで報告しました。

現在、2010年策定の「JIAのBCP」を見直しており、JIAのDCP2018とJIA災害ネットワークを公開する予定です。

〈日建設計〉

## 国際事業委員会

委員長 高階澄人



国際事業委員会の2018年度の主な活動は下記の通りです。

アルカジア東京大会2018/ACA18TOKYOに向けて、委員会単独の活動を抑え、同大会の開催準備と大会期間中の運営に委員会を挙げて協力したことが大きな特徴です。また例年、JIA建築家大会期間中に本部国際交流委員会と協働して開催している協定会長を招いてのIPF(国際会長間会議)は、ACA18とJIA建築家大会東京の同時開催のため2018年は開催を見合わせ、大会会期中の種々のプログラムやイベントにおける会員と外国人参加者間の交流促進に努めました。

タイ王立建築家協会との災害関連ワークショップは今年も継続しており、活動規模や内容の専門性から、本部国際交流委員会や他委員会と協働しています。2016年に国際事業委員会の活動として始まったスウェーデン建築家協会との交流は、小規模ながら多面的に展開しています。

また2018年は、海外建築関連団体や在日大使館からのJIA訪問要望が多かったため、在京の国際委員会として本部国際交流委員会と分担して、モンゴル建築家協会、韓国建築家協会、香港建築家協会、ブルネイ建築家協会、スイス大使館、アイルランド大使館への対応を行いました。国内建築界に向けたアルカジア東京大会報告会やJIA国際活動報告会の開催に際しての協力も行いました。

〈高階澄人建築事務所〉

## 環境委員会

委員長 長井淳一



持続可能な環境建築デザインの推進と実践に向け、会員ならびに社会に有用な情報を発信することを活動目標としています。

環境課題は、地球と地域、街と建築、風土や暮らしを包括する領域です。広い視野が求められ、今年度は環境会議との連携を軸に活動を行いました。5月に「再生可能エネルギー利用と建築デザイン」を共同企画で開催し、9月の建築家大会では環境会議のホスト支部として企画・コーディネートを担当、12月には国交省「今後の住宅・建築物の省エネルギー対策のあり方について」に関するパブリックコメント応募に積極的に対応しました。また、これらの発信ツールとしてWeb視聴の活用、ホームページのリニューアルを進めています。

さらに今年度から「JIA環境建築賞入選作品見学ツアー」をスタートしました。毎年末に環境建築賞が決定します。その最新のデザイン手法をいち早く知っていただくための新企画です。第一弾として、3月29日に設計者の方をお招きし「埼玉工業大学ものづくりセンター」の見学会を開催しました。多くの方の参加があり、木の香りに包まれた落ち着いた空間でコーヒーを飲みながら、環境建築について活発な議論ができました。



3月29日見学会

〈長井淳一建築アトリエ〉

アーバントリップ  
実行委員会

委員長 尾形光男



2018年度は、3回の見学会とJIA建築家大会2018東京の協力を行いました。今年度のテーマの1つとして、竣工年が新しい建築ばかりではなく、使い続けている建築にも目を向けています。

- 第87回アーバントリップ(終日徒歩)(2018年7月27日)  
テーマ:「都市と建築 つなげる、つながる 建築」  
見学先:①港区立郷土歴史館等複合施設(ゆかしの杜)、②明治学院白金キャンパス(礼拝堂他)、③YS BLD.(青木邸+集合住宅)
- 第88回アーバントリップ(終日バス)(2018年10月10日)  
テーマ:「八ヶ岳山麓に佇む建築」  
見学先:①八ヶ岳高原音楽堂、②サンカク、③女神の森セントラルガーデン、④小淵沢駅合乗駅舎
- 第89回アーバントリップ(終日バス)(2019年3月7日)  
テーマ:「富士山麓に建つ建築を訪ねて Vol.2」  
見学先:①静岡県富士山世界遺産センター、②むく保育園、③ヴァンジ彫刻庭園美術館、④ベルナルド・ビュフェ美術館

一般の方や設計者にとって、有意義な見学会になったと思います。

〈日本設計〉

## 建築セミナー実行委員会

委員長 小堀哲夫



2018年度のテーマは「Making Architecture Together—環境と人間—」として、受講生は27名、実行委員は委員長、委員、ワーキングスタッフを含め11名。加えて、例年通り10名のセミナーOBの助けを借りて運営した。年間を通してのプログラムは以下の通り、9プロジェクトで22講座とした。

1. 開講 | Making Architecture Together
2. 設計者と話題の新建築を巡る
3. 日本の名数寄屋建築に迫る。茶室の作り方
4. NEXT LANDSCAPE
5. 昭和の名建築を維持するために
6. 新たな世界を切り開く学びの場
7. まもなく半世紀、建築家はいま。1970年代から現代と未来を考える
8. あたらしい認識とモノの関係
9. ラグジュアリーなホテルを造るために

各回出席率が良かった。特筆すべきは、最終講座としてのスリランカのバウ建築の海外視察旅行に20数名の受講生が参加し、好評を得たことである。 (小堀哲夫建築設計事務所)

## JIAトーク実行委員会

委員長 椎名英三



1976年よりスタートしたJIAトークは、日新工業株式会社の協賛により、例年通り年4回のペースで、今年度は第171回から第174回までが開催されました。

第1回は、劇作家であり演出家でありそして役者でもある野田秀樹氏による「偶然崇拜」というタイトルで行いました。野田氏のトークは、トークのみではなく身体を横たえたり正に演劇的なものとなりました。第2回は、サウンドクリエイターでありシンガーソングライターでもある中塚武氏によるもので、「トラックメイキングの現場」というタイトルで、聴衆から3つのキーワードを採取して、それを元にして即興で作曲するというダイナミックなトークとなりました。第3回は、親子ほどの年の差のグラフィックデザイナー、仲條正義氏と服部一成氏による「仲條 服部二人で一人前」というタイトルで、デザインを巡る軽快なトークになりました。第4回は、クリエイティブディレクターでありテクニカルディレクターでもあるライゾマティックスの齊藤精一氏による「建築・都市というメディア」というタイトルで、ITをより良き都市環境を構築すべきコミュニケーションツールとして駆使し、その可能性に挑戦するという力強いトークでした。

また本年度より、JIA関東甲信越支部のホームページにJIAトークの報告記事を掲載し、会員に周知するようにしました。 (椎名英三祐子建築設計)

## 学生デザイン実行委員会

委員長 松村哲志



第27回東京都学生卒業設計コンクール2018を、2018年5月19日(土)に開催しました。コンクールに向け、月に1回定例会を開催し、会場の選別や審査委員の選定などを行いました。

今年度の会場は早稲田大学西早稲田キャンパス55号館です。23大学3専門学校から51作品が一堂に会し、5月19日の公開審査には審査過程を見ようと多くの来場者が集まりました。審査委員長には富永譲氏、副審査委員長に江尻憲泰氏、審査委員には手塚由比氏、永山祐子氏、羽鳥達也氏を迎えました。大変充実した議論の結果、金賞、銀賞、銅賞、審査委員特別賞の8作品を選出していただきました。また、前回大会より始まった奨励賞には2作品を選出しました。11月末には作品集も完成し、活動内容の情報発信を行っています。

また今年はいまから建築家を目指す学生たちへのさらなる情報発信と啓蒙を考え、27回をまとめたアーカイブ作品集の製作、出版、大学への寄贈を行っています。またデータストックも同時に着手しており、平成の卒業設計をまとめたアーカイブの整備を進め、今後の活用への一歩目としての活動を行いました。



審査の様子

(AMBIENCE ARCHITECTS)

大学院修士設計展  
実行委員会

委員長 佐藤光彦



「大学院修士設計展」は第17回目を迎えることができました。参加校・出展数とも昨年度より増え、来場者数も285人にのびりました。2012年度よりWEB展を継続しつつ、図面と模型を展示する展覧会を開催し、建築家の単独審査による審査、講評を行うこととしています。また、展示作品と審査・講評、各大学の研究室紹介を収めた作品集が総合資格学院の協賛を得て、毎年刊行されています。

次年度も、本展覧会が学生、大学教員、建築関係者、市民を結びつける活動に発展することで、大学院教育に少しでも寄与できればと考えています。

会場設営に当たった実行委員および学生のみなさまの協力には、この場を借りて御礼申し上げます。

## [展覧会]

会 期：2019年3月7日～10日

会 場：日本大学理工学部駿河台キャンパス

審 査 会：2019年3月9日

審 査 員：山本理顕氏

参加大学：26大学(28専攻)

出 展 数：48作品

(日本大学理工学部／佐藤光彦建築設計事務所)



## 交流委員会

委員長 河野剛陽



2018年度は、東京開催のJIA建築家大会での協力会員サミットの企画運営、および大会実行委員会の広報部会への参加協力が最も大きなイベントで、積極的に参加しました。また、協力会員主体の活動も業種別の7グループの垣根を越えてできたと思います。恒例のイベントとなったフレンズカップ、交流大会・セミナーは例年通り行い、参加者も増えました。しかし、イベントへの正会員の参加数はそれほど増えていません。交流委員会の目的は、正会員と協力会員の交流を促進することですので、もう少し広報の方法を検討していきたいと考えています。

2019年度の目標は、協力会員が正会員主体の各委員会に参加することを実行に移したいと考えています。協賛という形だけではなく、一緒に作っていくJIA活動ということで積極的な参加を促進していきます。それから、現在交流委員会の活動に参加できていない協力会員の掘り起こしを考えており、それぞれの協力会員の知り合いでJIAの活動に参加していない正会員にもアプローチできないかとも考えています。

交流委員会ではグループごとに講演会やセミナー、建物見学会、懇親ゴルフコンペ、懇親会等いろいろなイベントを開催しています。正会員の皆様へのご案内も随時行ってまいりますので、ぜひご参加ください。協力会員と正会員の接点が多く持つよう働きかけをしていきたいと思っています。(IAO竹田設計)

## 2018 全国大会 実行委員会

委員長 藤沼 傑



2018年9月13日(木)から15日(土)まで、アルカジア大会と同時開催した全国大会は、793人が大会登録し、アルカジア大会からの参加者も考慮すると1,000人規模の大会となりました。

大会詳細は『JIA MAGAZINE』357号(2018年12月)に報告しました。

国土交通省、東京都、品川区をはじめ、多くの団体に後援していただき、88社に協賛をいただきました。その結果、大会収支は黒字を確保できました。(ウイスト建築設計)

### ●委員会一覧(2018年度)

総務委員会	委員長：榎本雅夫
広報委員会	委員長：市村宏文
・ Bulletin編集WG	編集長：長澤 徹
・ ホームページWG	主査：中澤克秀
建築相談委員会	委員長：大竹司人
・ 首都圏建築相談室	
・ 神奈川建築相談室	
・ 千葉建築相談室	
・ 埼玉建築相談室	
・ 群馬建築相談室	
保存問題委員会	委員長：窪寺弘行
苦情対応委員会	委員長：福富啓爾
支部建築家資格制度実務委員会	委員長：寺山 実
都市・まちづくり委員会	委員長：亀井尚志
建築・まちづくり委員会	委員長：黒木正郎
災害対策委員会	委員長：松下 督
国際事業委員会	委員長：高階澄人
環境委員会	委員長：長井淳一
アーバントリップ実行委員会	委員長：尾形光男
建築セミナー実行委員会	委員長：小堀哲夫
JIA トーク実行委員会	委員長：椎名英三
学生デザイン実行委員会	委員長：松村哲志
大学院修士設計展実行委員会	委員長：佐藤光彦
交流委員会	委員長：河野剛陽
2018全国大会実行委員会	委員長：藤沼 傑

## デザイン部会

部会長 山本想太郎



多彩なゲストを招いた公開イベントを中心に活動を行っています。本年度はNPO日本デザイン協会と共催し、公開トークイベント「日本型規制社会と知的生産 ―イタリアン・セオリーから学ぶもの―」を開催いたしました。現代哲学の観点から日本における建築規制のありかたを検証するという、あまり類例の無いテーマのトークセッションでしたが、政治哲学における「生政治」の概念から、建築の価値を判断するプロセスの難しさや、そこにおける建築専門家と一般社会との関わり方などの実践的な方法論まで、広がりのある議論となりました。(参加29名) パネラー(敬称略)：神田順(日本大学教授、東京大学名誉教授、建築基本法制定準備会長)、連健夫(連健夫建築研究室)、山本想太郎(山本想太郎設計アトリエ、デザイン部会長)、大倉富美雄(日本デザイン協会理事長)

部会では今後も不定期に、タイムリーなテーマのイベントを開催していく予定です。(山本想太郎設計アトリエ)



神田順氏によるプレゼン



イタリアの哲学者 G. アガンベン(左)と A. ネグリ

## 都市デザイン部会

部会長 鈴木和貴



## ●セミナーや見学会の開催(敬称略)

「水と緑の街のUmwelt/南ドイツのまちづくり」(彦根アンドレア) ボーデン湖とその周辺環境やまちづくりについてのセミナー。歴史や文化に恵まれた地域も、1940年代後半から環境の変化が生じてくる。「ボーデン湖を救う」活動は単なる環境改善にとどまらず、経済やエネルギーの自給にもつながる活動となり、結果、多くの人たちが憧れる地域へととなっていく。

## 「都市部における木質構造(木質材)の可能性について」(山代悟)

CLT (Cross Laminated Timber) 材やLVL (Laminated Veneer Lumber) 材での木質空間の新しい可能性についてのセミナー。端部の納まりにもさまざまな工夫がなされ、材料特性だけでなく法的な制約を理解されているからこそその美しい空間になる。

## ●部会員によるショートレクチャーと活動報告

ショートレクチャーとスライドによる発表(夏編・冬編)

## ●研修旅行：6月15日～17日

北東北3県の、明治以前から現代に至る重要建築や現代建築、黒石市や弘前市などの江戸期からの集落や修景地区などを見学。オガールプラザ→小岩井農場→乳頭温泉(泊)→オフグリッドハウス→角館伝建地区→小坂鉱山事務所・康楽館→酸ヶ湯温泉(泊)→黒石伝建地区→盛美園→弘前伝建地区→斜陽館→A-FACTORY (PAX建築計画事務所)

## 住宅部会

部会長 高橋隆博



2018年度も住宅部会伝統の和気あいあいとした雰囲気の中、例年通り、年12回の市民向けセミナー(OZONEおよびLIXIL東京ショールーム隔月開催)や街歩きといった公益活動と、個々の資質向上に向けた共益活動を行いました。2017年度を踏襲し建築家の職能や住宅のサステナビリティを考えながら、特に今年度は住宅部会そのもののサステナビリティを念頭に、楽しくためになるコンテンツに努めました。具体的には毎月1回の「住宅部会の日」を活動日と定め、活動会議と市民講座WGを毎月開催し運営してまいりました。4月の、往年の大先輩から若手会員までが集い部会の歴史を辿る企画に始まり、「今さら聞けないシリーズ」での勉強会の他、納涼を兼ねた深大寺のエコハウスの見学、AHECHとの共催による北海道ツアー(北海道支部との交流と旭川の広葉樹視察)、長野の有壇舎での夏合宿など外苑前を離れたお楽しみ企画、また、原点に戻り住宅のディテール考の企画や、互いの作品を持ち寄り第一回の住宅部会賞・部会選の立ち上げ等、日常業務に役立つ内容や本来の住宅を楽しむ時間が共有できました。それに伴い、次年度への楽しみな企画がいくつも生まれたこと、毎回久々のお顔もお見受けできるようになったり、新たに2桁を超える入会者にも恵まれるなど、部会のサステナビリティへの成果が見られた有意義な1年となりました。(アトリエ秀)

## メンテナンス部会

部会長 柳下雅孝



2017年度に取りまとめた当部会の30周年記念誌『マンションの大規模修繕30年の軌跡』を踏まえ、今年度からの新たな取り組みとして、毎年秋に「マンションメンテナンス大会」と題したイベントセミナーを開催することにしました。

初回のテーマは「築50年時代のマンション再生」とし、来年度までの2年間にわたり築50年近いマンションの改修事例だけを集めた小冊子を編纂し大会で発表していきます。そこで見てきたことは、これまでのやり方や考え方が通用しない改修の場面や、これまで難題な修繕を後送りしてきたことのツケを一気に精算するかなのような大胆な改修や資金調達などです。マンションを100年以上使っていくために、築50年というハードルの乗り越え方を模索していきます。

また、毎月定例のメンテナンス部会セミナーでは、これまで通り分譲マンションにおける耐震改修、設備改修、超高層マンションの大規模修繕など、部会員からの事例報告や外部講師を招いての改修技術の研鑽と啓蒙に努めております。

(マンションライフパートナーズ)

## 住宅再生部会

部会長 岸崎孝弘



今年度は座学のセミナーと現地で建築に触れる参加型セミナーを行った。自由に誰でもが参加できるセミナーとしているため、多くの聴講者が集まり、毎回熱心な議論が行われている。新たなテーマとして、空き家問題、超高層マンションの問題など、職能としてのインスペクション制度などにも展開を広げている。

町歩きでは千葉県大多喜町役場など、古い街並みと新しい庁舎を見学した他、廃小学校をリノベーションした道の駅などを見学した。加えて、昨年より始めた既存木造住宅の耐震性能を向上させる工法・技術や環境にやさしいエコロジーについて学ぶ研究会をセミナーと同時進行形で行うことを継続している。

今後もこの活動を続け、住宅再生の実践も増やしていくことが大切と考えている。ぜひお気軽にセミナーへご参加をいただければ幸いです。  
〈日欧設計事務所〉



4月の住宅再生セミナーの様子  
講師：日影良孝氏

## 情報開発部会

部会長 天神良久



情報開発部会は法人協会員Gグループと合同で、月に一回部会・勉強会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。講師をお呼びしたり、会員内から新情報を発表してもらったりしています。

2018年度の勉強会では、「BIMモデルを活用した業務プロセス」「Lumionの概要とプレゼンテーション事例」「メールソフトの使い方色々」「ARCHICADの概要とデモ」「コンピュータ利用による設計スタイルの変化」「会員の建築作品紹介」等々を開催しました。

見学会では12月に話題の大和市文化創造拠点シリウス(図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場などの複合体施設)を訪問して、公共施設の民間運営の現状を運営会社にヒアリング、集客拡大の状況確認、最新の図書貸出し機能のIT技術等を体験しました。

新会員は随時募集中です。JIA関東甲信越支部のホームページに「勉強会」のお知らせを掲載しています。ご興味のある方はお気軽に部会・勉強会を覗いてください。

〈PPP総合研究所／東洋大学客員教授〉

## 建築交流部会

部会長 観音克平



定例会のほか、研究会や見学会を行っています。(下記)

●近代洋風建築研究会(第7回～18回)

- 4/25「片山東熊とコンドル」、5/23「映像で辿る西洋建築史」、6/13「京都迎賓館」、7/25「旧朝香宮邸(現庭園美術館)」、7/25「木造寺院建築を支えた技術Ⅰ」、8/22「同Ⅱ」、8/22「歴史建造物の保存再生(前野まさる)」、9/26「震災復興記念堂」、「近代化の象徴：宮殿と刑務所」、10/24「コンドルと岩崎邸」、11/28「ゼムパーの様式論と迎賓館」、12/19「ヴォーリズの夢：建築と家具」、

- 1/30「イタリアのパラッツォ、西洋宮殿と赤坂迎賓館」、2/27「アンピール様式とその波及」、3/22「迎賓館の細部意匠」

●そのほかの研究会、見学会、旅行、デザインレビュー等

- 6/11「世田谷区役所見学会」、6/20「ロボコン建築研究会」、7/18「ワインとフランス料理の会Ⅰ」、12/5「同Ⅱ」、10/19～21「見学旅行：村上、鶴岡、酒田、新庄、天童、山形」、12/4「旧熊本通信病院アーカイブス発表会」、



近代洋風建築研究会

- 1/16「レビュー吉祥寺南口計画」、2/20「同 井の頭公園計画」  
〈アトリエ・アーキポスト〉

## 建築家写真倶楽部

部会長 兼松紘一郎



改めて記すことでもないが、写真を通して“この時代”の“この世の風情”を味わうことが、私たちの生きていくことを慈しむことにもなるのではないかとの一論が部会の中で取り交わされている。

JIAに所属する建築家たちと共に街を歩き、写真を撮りながら街の様相を汲み取り、後に撮った写真を観ながら、お互いの視点の違いに好奇心が湧き、さらに、ここで生活する人々の「生きていくこと」への想いが湧いてくる……ことに関東甲信越支部の機関誌『Bulletin』の制作を担っている南風舎の担当八木聡子さんとの価値観の共有によって、建築家の思惑を考察することができるのは、ありがたいし心強い。

さて、この春、暖かくなったらJR線日暮里近辺の木造建築群による下町を、あるいは銀座を拠点とした街をスタートにして、その先に現れる裏町風情を読み取り、現在の時代を改めて考察できるのでは！との好奇心に満ちた思惑も取り交わされている。

さてどうなるか、僕自身、興味津々、その後の論考のやり取りが楽しみでもある。  
〈兼松設計〉

## 再生部会

部会長 大橋智子



再生部会は、歴史的に価値のある建築物を使い続けるための活動を継続しています。毎月約20名のコアメンバーを中心に、関東甲信越支部以外の会員も参加して、定例会を開催しています。2018年度も毎月の例会の他、見学会、シンポジウム、セミナーを開催しました。

●見学会：6月 登録有形文化財「伊藤邸」(アントニン・レーモンド、ノエミ設計)と「私の家」(清家清設計)見学／8月「気仙沼風待ち地区」見学 ●シンポジウム：9月 JIA 建築家大会～貴重な歴史文化遺産を引き継ぐ～「気仙沼風待ち復興検討会」の「登録有形文化財」建物との取り組み 開催 ●セミナー：1月「伝統的な住まいの再生」～熊本地震を乗り越えて～講師 柿本美樹枝氏／2月「良い建物を長く使った結果としてのロングライフビル、その営みをサポートする手立てとしてのLEEDとその仕組み」講師 大村紋子氏 (一級建築士事務所 大橋智子建築事務所)



6月、見学会「伊藤邸」



9月、JIA 建築家大会シンポジウム

## ミケランジェロ会

部会長 阿部一尋



スケッチ会を新宿御苑にて春6月2日と秋11月10日の2回行った。

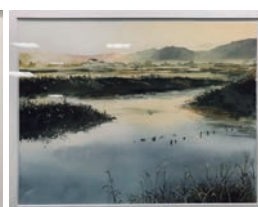
アーキテックガーデン参加企画として展覧会を銀座晴海通り地下の「銀座プロムナード」に於いて、4月14日～28日の2週間開催した。水彩画20点、油彩画5点、鉛筆画3点、エッチング等4点、パステル画2点、写真7点、陶面1点が出品された。

これまで新宿や銀座の展覧会場は、少なくとも平成23年以降から「東京都道路整備保全公社」に提供いただいていたが、今年度が最後となった。2019年度からは渋谷駅から徒歩5分の渋谷区桜丘町「渋谷区文化総合センター」内の「ギャラリー大和田」で開催予定である。

今年度は矢野敏章氏が逝去され、遺作を展示しご家族も反省会に出席された。また前部会長の富安秀雄氏が平成31年3月逝去された。  
(一級建築士事務所 みらい)



ポルト駅(エッチング) 観音克平



夕暮れ時(水彩画) 故矢野敏章

## 金曜の会

部会長 久保田恵子



金曜の会は、建築家クラブの活性化を目的とし、毎月1回トークイベントを開催しています。

建築家会館のクラブ・バーは、開設当時、前川國男等と語り合える場、各分野の方々との交流の場として、とても賑わっていましたが、一度は閉鎖、2008年前川國男が提唱した「処土横議の場」の復活を目指し、クラブ・バーの再開、建築家クラブが併設されたと聞いております。

現在、金曜の会では、“建築”をキーワードに、JIAの会員のみならず、学生、一般の皆様と共に、学び・楽しみ・語り合えるサロンとしての活動を行っています。

2018年度は年6回の建築家連続講座をはじめ、JIA日本建築大賞などを受賞された建築家、地方で活躍されている建築家や若手の建築家の方々のトークイベントを開催。各回トーク終了後、会場でワインや軽食を囲んでの懇親会は、講師と参加者との話らいや、参加者同士で親睦を図る光景が広がっており、毎回参加をしてくださる方もおられ大変嬉しく思います。

また、プロによるビデオ撮影を毎回行い、「金曜の会」から質の高い情報を提供できるよう、動画配信も積極的に行っています。

(5'st 一級建築士事務所)

## 学芸祭部会

部会長 大川宗治



学芸祭部会は、協力会員も含めたJIA会員同士の交流という目的のもとに活動しております。

2018年度は、新年の集いにおいて、ピアノによるBGM演奏の他、JIA東京大会のバンドパーティーにて演奏し、各会員との交流を図りました。

今回の建築家大会はARCASIAも同時開催されたこともあり、アジア各国をはじめ、アメリカやハンガリーなどの国の方々も30人くらい来場され、一緒に踊り歌って楽しんでいただきました。関東甲信越支部メンバーだけでなく、他の支部メンバーやARCASIAメンバーとも、音楽を通じて幅広く交流を図ることができました。  
(一級建築士事務所 OM-1)



ピアノを演奏される浜田さん



2019年バンドパーティー

## ●部会一覧 (2018年度)

デザイン部会	部会長：山本想太郎
都市デザイン部会	部会長：鈴木和貴
住宅部会	部会長：高橋隆博
メンテナンス部会	部会長：柳下雅孝
住宅再生部会	部会長：岸崎孝弘
情報開発部会	部会長：天神良久
建築交流部会	部会長：観音克平
建築家写真倶楽部	部会長：兼松紘一郎
再生部会	部会長：大橋智子
ミケランジェロ会	部会長：阿部一尋
金曜の会	部会長：久保田恵子
学芸祭部会	部会長：大川宗治

## 神奈川地域会

代表 小泉雅生



2018年度、神奈川地域会では「サステナビリティを考える」をテーマに掲げ、活動を行いました。

まず、学校建築の専門家を講師に招き、建替えがすすめられる学校建築を対象とした研究会を2回開催し、行政、教育関係者も交え、多角的な議論を行いました。10月には建築フォーラムとして、「建築から環境へ—サステナブルで豊かな暮らしに向けて」と題したシンポジウムと展示を行い、旧根岸競馬場の見学会およびシンポジウムをNPO法人歴史的建造物とまちづくりの会と共催しました。

2月の建築祭では、デザインアワード、卒業設計コンクール、茶室コンペ、近代建築まち歩きを例年同様実施しました。シンポジウムも2つ開催しましたが、村野藤吾設計の現横浜市庁舎に関わるシンポジウムでは、一般の方も多く詰めかけ、関心の高さがうかがえました。加えて京都工芸繊維大学松隈研究室の協力のもと、村野藤吾作品の写真展も開催しました。

他、横浜市への現庁舎建築の保存活用についての要望の提出、子ども空間ワークショップの開催などにも取り組みました。

これからもイベントなどの活動を展開するとともに、その活動を維持するための体制を整えることにも注力していきたいと思えます。

〈小泉アトリエ／首都大学東京〉

## 千葉地域会

代表 榎本雅夫



百科シリーズとして毎年開催している講習会は、毎回会員や市民のニーズを反映した課題について、千葉県の担当部署や法人協力会員による講演をいただく研鑽の場として定着している。2018年度は8月に「新・アスベスト百科」と題し、アスベスト問題の新基準を取り上げた。県内自治体関係者の出席も増えている。

9月には千葉県建築学生賞創立30周年記念式典が開催された。学生賞の発足から現在までの成長の歴史を振り返りつつ、今後の継続への熱意をこの賞に参画してきた多くの方々とともに確認する機会となった。3月には第31回学生賞が開催された。JIA全国卒業設計コンクールへの出展作品も決める公開審査では、学生と審査員との熱心な意見交換が今年も繰り上げられた。

1月には賀詞交歓会と併せて講演会を開催している。今年は昨年度に続く第2回リレートークを「いい街・いい家づくり」と題して行った。1人当たりの持ち時間は10分ほどだが、作品にかける思いは十分に伝わってくる。会員以外の設計関係者にも参加を呼び掛け、JIA入会のきっかけづくりにもなっている。

友好団体で構成する千葉県建築設計関連6団体は、協動的な活動や行政との連携を図る上で有効な組織となっている。講演会の主催、各団体行事の共催・協賛、発注制度改善の推進、県建築指導課による情報共有化、県土整備部3課長を囲んでの意見交換会等を定期的に行っている。

〈榎本建築設計事務所〉

## 埼玉地域会

代表 村田行庸



- 4/14～17: 第18回卒業設計コンクール展にて、埼玉建築設計監理協会主催イベントを共催。JIA埼玉賞を選出し、全国大会へ推薦。
- 7/26: 協会員企画 YKK80ビル視察。
- 10/6・7: 空間デザインWS 風と雲をつくろう!! 別所沼公園ヒアシンズハウス前にて。
- 10/6: 南区ふるさとふれあいフェア絵画コンクール展。
- 新木場木まつり企画として: I 9/22～10/6「木と樹」WoodとTreeクリエイターがあらわす自然観、シンポジウム「ヨーロッパの木造建築から「木と建築と社会」を考える」(講師: 網野禎昭先生) / II 11/13 妙壽寺鍋島客殿 内田祥哉先生・後藤治先生講演および吉村順三設計茶室見学 / III 11/16「人が快適に暮らせる建築環境」(講師: 宿谷昌則先生) / IV 省エネ法における「気候風土適応型住宅」について(講師: 高橋昌巳先生)。
- 定例事業として建築相談を毎月大宮・川越で開催。
- 毎月懇談会として会員内外の参加者を募りプロジェクターを使い、参加者全員の情報発信と意見交換を行う。



空間デザインWS

JIA埼玉では、会員同士や他業種の方との情報交換の場を提供している。他団体との連携も積極的に進めていきたい。

〈アライ設計〉

## 茨城地域会

会長 根本洋一郎



茨城地域会は、建築家として「建築文化の創造・発展のために」、また「地域に何を貢献できるか」を模索しながら活動を展開しています。

2018年度の主な活動としては、10月21日に水戸市七ツ洞公園で開催されたKUNITA de ART(くにたであーと)に参加。1/500の水戸の地形模型に建築用の発泡スチロールのキューブ・円筒・円錐・球体など、さまざまな素材を組み合わせて自由に建物を作ってもらい、参加型ワークショップ「みんなで水戸のまちをつくっちゃおう」を開催しました。

2019年1月には今年で12回目を迎える会員の作品展「茨城の建築家展2019」を開催し、「建築の公共性」をテーマに10名の会員が作品を展示しました。ギャラリートークも開催し、会員による作品の紹介とともに、比嘉武彦氏による講演を実施しました。

また、3月には日本建築学会関東支部茨城支所と共催で、建築文化の創造と発展に貢献することを目的として、市民の方々にもご参加いただき、羽鳥達也氏を講師として招聘して「建築文化講演会」を開催しました。

〈根本建築設計事務所〉

## 栃木地域会

代表 阿久津新平



栃木地域会は地域に根差したまちづくり活動や建築家を志す学生との交流を柱に活動をしています。

●「まち歩き、建築見学会」(10月13日)「大谷石とアートをめぐるツアー」を、(NPO)大谷石研究会と共同主催し、大谷石の建物と大谷地区で活動している作家を訪ね、一般市民と共に建築やモノづくりの楽しさを味わいました。●「第25回スクールin栃木」(10月21日)は県内で建築を学ぶ学生を対象に交流し豊かな感性を育成する教育活動と会員の自己研鑽のための勉強会です。ローカル・リパブリック・アワード最優秀受賞「鹿沼の路地からはじまる小さな経済」「ネコヤド商店街」見学会は受賞者の解説を受けながらまち歩きをしました。この見学会で訪れた「CICACU」で忘年会を行いました。●北関東甲信越学生課題設計コンクールの合同会議を10月27日に開催しました。会議前に大谷石採掘場の立坑見学をしました。●「栃木クラブ建築物語」は忘年会と同時に開催し、テーマはイタリアの旅と田舎の再生プロジェクトの紹介でした。●「第35回栃木クラブ賞」は3月11日から展示を開始し、17日公開審査を西田司氏(特別招待審査員)と、地元で活躍の若手建築家2人(招待審査員)を迎えて行い、グランプリを選出しました。西田氏には特別講演をしていただきました。西田氏と招待審査員2人による鼎談も行いました。●3月末には北関東甲信越学生課題設計コンクールに参加しました。(睦和建築設計事務所)

## 群馬地域会

代表 小林光義



「会員にとって“期待と魅力”ある地域会！」というスローガンのもと、自身研鑽のための学び場として『GAトーク』を開催しました(GAとはGUNMA ARCHITECTの略です)。第1回「断熱と蓄熱」(6月8日)唐澤勉氏/第2回「開口部」(8月10日)家住美路氏/第3回「プロセス」(11月17日)神澤宣次氏/第4回「翻刻と図化」(1月26日)長井淳一氏/第5回「わたしのアーカイブス」(3月1日)松本金弥氏と、年間を通じ5回開催しました。「みんなで一緒に考えよう」を主軸にお互いの思考や手法を知ることにより、より詳細な建築について互いに高め合いました。11月17日には「建築学校」をブルーノ・タウトゆかりの少林山達磨寺で開催しました。座禅：住職講和を通し無と向き合う。セミナー：「ブルーノ・タウト緑の椅子復刻」と「天童木工の沿革と取り組み」を開催しました。3月1日から「まちなか建築展」を3日間にわたり開催しました。ゲストトーク「モダンデザインが結ぶ暮らしの夢」住田常生(高崎市美術館主任学芸員)、吉田家住宅と泉庄御殿(国登録有形文化財)の見学会を開催しました。

3月29日には山梨知彦氏による特別講演会「建築デザインの可能性と未来」を開催。翌30日には第22回JIA群馬クラブ学生卒業設計コンクール2019を開催し、山梨知彦審査委員長のもと各賞が選出されました(支部事業である第13回JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール2019との同時開催)。

(アーキズム あすか設計)

## 山梨地域会

代表 奥村一利



山梨地域会の2018年度の活動を簡単に報告します。

### ■見学会

- ・まちづくりをテーマに神奈川県藤野町を視察。昭和61年から進められている「藤野ふるさと芸術村構想」の成果を視察した。
- ・山梨県建築文化賞に選定された建物から、「女神の森セントラルガーデン」と、古民家を改修し使い続ける「丸藤葡萄酒工業」を見学した。

### ■行政への働きかけ

- ・南アルプス市の産業土常任委員会で、古民家再生について講演し懇談会を行った。
- ・前年より立ち上げている「美しいまちづくり」、自然景観や地域の産業が作り出してきた特徴的な景観に価値を置き、行政・住民・企業との協働により地域住民が誇りを持つ「まちづくり」を目指して立ち上げた4つのプロジェクトについて、上野原市と甲府市の担当者と協議した。
- ・山梨県「美しい県土づくり大賞」に参加し、前年度の活動を展示した。

■山梨県高校卒業設計コンクール：賞状とトロフィーを授与

■北関東甲信越学生課題設計コンクール2019：参加

(馬場設計)

## 長野地域会

代表 荒井 洋



2018年度は行政や他団体との交流、会員間の交流を活発にして会の活性化を図り地域社会から信頼される団体を目指して活動してきました。

交流委員会では、「仕事を語る会」を4回開催しました。長野地域会会員が自らの仕事を発表する場で、質問自由のフリートーク形式です。座学と現地見学の2本立てで行い、法人協会会員も多数参加して下さり、少しずつ交流が深まりつつあります。

まちづくり委員会では、県産材を中心とした地場産業活性化への積極的な参加と人的交流を図るため、「地域材を語ろう」という会を3回開催しました。県や市町村の担当者、林業関係者、正会員、協力会員から多数の参加がありました。そのほか塩尻市平出地区のまちなみウォッチング、地域材フィールドワーク(廃棄物処理とリサイクルの現場見学)を行いました。

恒例の夏のセミナーでは、武藤章先生設計の「白樺湖夏の家」を工学院大学鈴木敏彦教授の案内で見学し、冬のセミナーでは重要文化財麻績神明宮を見学しました。

第13回建築祭を2月16、17日に松本市美術館で開催しました。1日目の第27回文化講演会は、講師に原田真宏氏を迎えてご講演いただき、2日目の第28回長野県学生卒業設計コンクールには過去最多の57作品の応募があり、活気に溢れた審査会となりました。(HAL設計室)

## 新潟地域会

代表 平原 茂



当地域会では例年3つの事業を中心に活動を行ってきました。1つ目は秋に行われてきた建築セミナーです。学生や若手設計者を対象に、国内外で活躍する建築家を招き自作を紹介してもらう企画です。今回は山下保博氏を招き、11月に開催しました。

2つ目は毎年2月に開催している県内学生課題設計コンクールです。住宅系の課題作品を県内の高校、大学に呼びかけ4校22作品の出展がありました。残念ながら今回は高校生が不参加でしたが、学校間の交流やJIA会員との交流の場が提供できました。

3つ目は3月の県内大学卒業設計コンクールです。今回は21回目を迎え、3大学と職能短大の4校15作品が集まりました。特別審査員に藤村龍至氏を迎え、公開審査には多くの学生が参加しました。恒例の夜の交流会も学生と審査員を務めたJIA会員との間で活発に意見が交わされました。

その他、毎月の定例会でのレクチャーも軌道に乗ってきました。はじめは会員相互の作品紹介がメインでしたが、2018年度は新潟市や県の役人を招待し、建築行政や都市計画についてレクチャーを受けました。CPDも付き、毎回出席する一般参加者も現れてきました。他団体との交流も心掛けています。事務所協会などから共催事業を呼びかけられたり、会合に招待されたりと、ようやく地域会の活動が他団体に認知されてきた感じがします。この流れで今年度も着実に活動していきます。

〈平原設計事務所〉

## 中野地域会

代表 小西敏正



●「建築家と日光をめぐるバスツアー」を6月8日に実施。区民29名参加。●「哲学堂学習展示施設についての要望書」を区の施設課に提出。「哲学堂公園 学習展示室に関する質問並びに提案」を区長・所轄に提出。●旧監獄正門を残し3階建てとした平和の森小学校(以下小と略記)配置案2例を10月10日に、同3例を追加して同月19日区に提出。平和の森小と旧監獄正門がテーマの「区長とのタウンミーティング」に5名参加。「提案競技に代え 旧中野刑務所正門を残す平和の森小の配置計画 素案集」を区長・所轄に提出(計6案)。●「区立小中学校の計画・設計に関する要望書」を区長・所轄に提出。●10月13日新庁舎整備区民WSに参加。「中野4丁目新北口地区 地区計画変更(原案)縦覧延期の要望書」を区に提出。8月21日～2月8日に行われた区役所・サンプラザ地区再整備区民会議に7回出席。2017年3月に提出した陳情が認められ、12月21日、2月15日に中野駅周辺まちづくり分野 中野駅周辺計画担当と意見交換をした。「区役所・サンプラザ地区の都市計画修正の要望書」を区長・所轄に提出。●新宿区立落合第6小で空間WSを開催した他、南房総市平群小跡地、世田谷区立千歳台小、東大和市立中央公民館、横浜市山下公園、八王子市立陶路小、杉並区立中瀬幼稚園、八王子市立浅川小、北区立滝野川第三小、武蔵野市立桜野小、板橋区立加賀小、川崎市立井田小、横浜市関東学院小で行われた空間ワークショップに会員が参加。(建築環境デザイン研究所524)

## 三多摩地域会

代表 高田典夫



2018年度は、例年通り「空間ワークショップ」が活動の中心となり、八王子市の5校、東村山市の1校、多摩市の1校、武蔵野市の1校と東大和市の1施設、杉並区の幼稚園、日野市の大学の計11ヵ所で開催のコーディネートを行うとともに、神奈川、板橋、世田谷、中野などの他の地域会がコーディネートして実施された空間ワークショップにも積極的に参加した。この空間ワークショップの教育的効果に注目した八王子市の小学校の先生方からの要請で、「八王子市指導力アップ研修会」という八王子市の小学校の先生方を対象とした空間ワークショップについての講義を行った後、空間ワークショップを体験していただく研修会を実施した。14年の歴史を持つ「授業としての空間ワークショップ」は、参加していただいた先生方との協働でそのフォーマットを作り上げてきて現在の形になり、建築造形教育だけでなく、子どもたちの社会性を育む活動として認められてくるとともに、地域とともに生きる建築家の存在が認められてきたように感じる。この活動は、実践女子大学日野キャンパスを舞台としたライトアップ・プロジェクト「光の庭」や、日野市中央図書館を舞台としたライトアップ・プロジェクト「光の森」の会場構成(会場空間演出:実践女子大学建築デザイン研究室)に発展して、新たな空間提案も行った。

〈アトリエテン/実践女子大学〉

## 杉並地域会

代表 堀 正人



設立から15年、今杉並の何が問題なのかを探りつつ、活動の新たな展開を目指しました。これまでの「土曜学校」は講義が中心で、参加者にとっては受け身のイベントでしたが、2018年度は参加者が主体的に関われるイベントを試みました。「私の杉並、この一枚」と題した公募展では、今の杉並の環境や生き生きとした姿を見つけ出し、それを切り取った写真や絵、言葉を集め。交流会では、応募作品を前に意見を交わすことで、杉並の魅力や問題点が多少とも垣間見え、何よりも会員各自の建築や都市への興味の在処が示され、本年度の活動の展開へと繋がっています。また2014年度から2017年度までの「土曜学校」の活動をまとめた3巻目となる冊子を発刊しました。杉並建築会の活動においては、区議会議員との勉強会、フォーラムで、行政への働きかけが多少なりともできたようです。

- 1) JIA杉並土曜学校 第1回「建築家の本棚」+トークイベント「私の一冊」/第2回「私の杉並、この一枚」展示会+交流会/第3回「アーバントリップ+津川村」奈良県+津川村へ1泊の旅/第4回「私の杉並、この一枚・みち」展示会+交流会
- 2) 杉並建築会との主な活動 「公共建築物の設計者ってどう選ぶ」講師:曾根幸一氏、河野進氏/「富士見丘小・中学校改築を考えるまちづくりフォーラム」/大会「鎌倉古道を歩く」杉並の古層を探る 講師:陣内秀信氏 (ホリアーキテツ)



## 新宿地域会

代表 小倉 浩



- 2018年度の新宿地域会の活動は下記の通りであった。
- ・新宿区主催の新年交礼会への出席(地域会役員一同)、区主催法令講習会への参加。
  - ・2017年度に完成した新宿区内の景観・建築100選のマップを各方面へ配布をしつつ、引き続き訪日客向けの英文版の編集に着手した。2019年度中に発刊し、オリンピック関係での来日客向けにも役立たせる予定である。
  - ・若手会員の入会と活動参加促進を進める中、区内若手建築家を中心とする集まりの、JIA新宿YG会との交流を深め、地域会活動を次世代へ受け継いでもらうための下地作りをしている。さらにコミュニケーションを深め次世代を担うジュニア会員など会員を増やしていくことが次年度の課題と捉えている。
  - ・手始めに次年度より、代表、地域会選出支部役員を交替し、若返りを図ることになっている。
  - ・行政への働きかけへの基盤作りとしてスタートした新宿建築三団体の共催活動も軌道に乗り、2017年度JIA新宿地域会が幹事会として行ったイベントは盛会のうちに終了。2018年度は東京建築士会新宿支部が企画した応急危険度判定員のためのセミナーが3月18日に工学院大で行われた。2019年度は東京都建築士事務所協会新宿支部が幹事会として企画を担当。年1回程度を目安に各団体輪番制でイベントを企画することになっている。
- (小倉設計)

## 文京地域会

代表 手嶋 保



文京地域会では建築士会文京支部が連携し「文京建築会」を立ち上げ、連携を図ることで建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流と親睦をはかり地域社会に貢献することを目指しています。また会以外の建築人の方々や区民、行政、専門家とも文京区という地域を舞台に共に活動し、交流を深め、さまざまな活動が行われ、現在も展開されています。下記に主な活動内容を紹介します。

●文京区見どころ・絵はがき大賞：文京区の自然や都市景観、祭りやイベントなど区の魅力を紹介する「絵はがき」を公募し表彰しており、地域の人々をつなげる活動の場となっています。2018年度で8回を数えますが、今後は発展的に市民の方々にも運営から参加していただけるよう考えています。

●小石川フォーラム：建築家を目指す若手や学生などの交流の場として小石川フォーラムを立ち上げました。第1回目は建築家の芦沢啓治さんに登壇していただき、その活動を通じてこれからの建築家のあり方についてプレゼンしていただきました。これから毎年3、4回開催する予定です。

●文京と区との協定：「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって協定を結び、現在は区との情報交換会を行っています。(手嶋保建築事務所)

## 城東地域会

代表 岸 成行



2018年の活動として、4月には中央地域会と共催し、中央区立城東小学校で子ども空間ワークショップを開催した。これまで数年にわたり開催をサポートしてきたが、事前の建築構造レクチャーをはじめ、子どもたちの積極的な姿勢に例年以上に刺激を受けた。学校公開日に合わせて開催するので、保護者の理解も得やすい。5月の東京都学生卒業設計コンクールに協賛し、東京の他の地域会にも協賛を呼びかけた。毎回、会場は設計を志す若い熱気に包まれる。6月は恒例の隅田川クリーンキャンペーンに参加する。都と隅田川兩岸の各区が主催し、さまざまな団体の数百名が参加し、護岸のゴミを収集して水質検査も行う。隅田川の浄化は確実に進んでいる。

まち歩きマップ作成準備については継続中である。隅田川を中心にその兩岸を繋ぐようなルートマップの作成を目指す。2019年度には形にしたい。

また、城東地域会法人協力会員である株式会社総合資格の協賛を受け、2019年度にかけて「なりたて建築士のための設計コンペ」を開催。年度をまたぐイベントであり、新たな一級建築士試験合格者を対象に行う。あわせて講演会「68歳の建築士法を考える」を開催する。建築士試験のあり方、建築士の在り方などについて問題提起したい。(岸総合計画研究所)

## 渋谷地域会

代表 南條洋雄



年度初めの総会で、正会員を在住在勤に限定しないよう地域会規則を変更、承認を得て、移転した旧会員または渋谷に関心のある新会員も所属できるようにした。その上で例年に引き続き新会員の獲得を目標に「学ぶ会」と「語る会」を軸に活動した。内容は会員、会友の得意とする研究分野、または外部から専門家を招いて業務に役立つテーマについてレクチャーを開催した。トレッキングと称した街歩きの他に、会員の建築作品の見学会も2回ほど行った。恒例の参加型プレゼンパーティー「CHIT-CHATTING」は1月に開催。プレゼンターが次々と替わり、それぞれ持参した10枚の画像を200秒で語りつくした。

渋谷区との協力関係では、9月の総合防災訓練(防災フェス)で東京都建築士事務所協会渋谷支部とともにブースを出し、応急危険度判定のデモンストレーションを行った。また防災点



10月例会「根岸のアトリエ」見学会にて

検の日には応急危険度判定員登録メンバーが参加したり、新設された空家対策協議会には委員として協力している。通常例会は、毎回必ず会員の誰かが作品を発表するなどして、会員間の親睦に努め、参加するだけで「楽しく役に立つ地域会」となるよう心がけている。(南條設計室)

## 世田谷地域会

代表 柿崎豊治



- ・毎月第3金曜日18:00から定例会開催。
- ・区内小学校5校での空間WSおよび土会主催のWSへの支援参加を行った。空間WSの活動も12年目を迎えている。例年の開催校では恒例化しつつあるなかで、地域会側の人員配置などに今後他地域会との協力などの対応策の検討が必要となっている。
- ・一部を残して建て替えの方向で基本設計段階に入っている世田谷区民会館および区庁舎に関して、地域会が展開してきた保存再生のための活動記録づくりを行っている。
- ・行政との連携では、例年に引き続き世田谷区建築物安全安心協議会に参加。また、区開設の耐震化・不燃化・建て替えなどの区民相談窓口対応に参加。
- ・アーキテツガーデンへの参加企画として始まった世田谷区地域風景資産を巡るまち歩きを継続して開催し、地域のまちづくり活動団体や市民との交流を行っている。世田谷の景観・歴史・地勢的な特性への理解を深めながら、市民との交流を図っている。
- ・会員交流活動：世田谷区民健康村である群馬県川場村にて会員間交流の懇親会を行った。往路復路で建築・まちづくりに関連する勉強会を開催した。 (アルコ建築設計事務所)

## 千代田地域会

代表 太田安則



- 首都の中心千代田区を活動地域とする千代田地域会は、日本を代表する官庁街、ビジネス街、古書店街、電気街、スポーツ用品や楽器に特化した商店街、大学キャンパス、庶民の職住のまち・神田など、多様な街並み景観を有しており、時代の波とともに変化を続けています。この現状を、将来にどう継承するかを共通認識として、公益的な活動に取り組んでいます。
- 「景観まち歩き調査」は区内の文化・歴史遺産や地形を含む都市景観を「都市の基層」というテーマで、景観要素、地形、交通などの都市インフラ、生活や歴史文化まで総合的に捉えて活動しています。
  - 多層な視点をまとめた「千代田 都市・建築展」を明治大学アカデミーコモンで11月15日から4日間開催しました。
  - 「千代田を舞台にした学生設計展2018」を同時開催し、製作者とトークセッションの後、優秀作品を表彰し懇親を深めました。
  - 最高裁公邸の見学会を新宿地域会と合同で開催しました。
  - 憲政記念館(尾崎記念館)の保存がテーマの学芸会・ドコモモジャパンとのシンポジウムを後援しました。
  - 富士見小学校「凸凹まち歩き」授業を10月3日に行いました。
  - 千代田区とは「災害時における応急対策活動に関する協定」に基づく連携を深める一方、会員の資質向上情報交換のため6回にわたり「公開メンバーズトーク」「ゲストトーク」を行っています。
- (一級建築士事務所 Y・Oまち・空間コンサルタント)

## 中央地域会

代表 小田恵介



- 教育活動 こどもワークショップ：2018年4月に第9回空間ワークショップ(城東地域会と共催)を中央区立城東小学校で開催。2班に分かれて、5、6年生約30名が共同で作品を構築した。毎年、各班とも作りながらイメージが膨らみ、短時間で素晴らしい空間構成が出現する。父母参観日に開催される。校舎は震災復興小学校として1929年建設されたが、再開発により超高層ビルの中に平成34年頃移転する。校舎は解体され、新築工事が始まった。
- 地域交流活動：2012年11月より、JIA保存問題委員会と協働で、「三原橋センター」解体の各種意見交換会を重ねている。2015年に解体され、アーカイブ化のため資料整理を進めている。2019年度は関連資料の具体的な保存方法を検討する。
- 会員交流活動：月例会は会員の事務所視察を兼ねて実施し、今年度は3つの事務所を訪問。5月には堀越英嗣ARCHITECT5を訪問し、現在進行中の新潟駅舎・駅前広場整備計画について、「Sketch Up」の徹底した活用方法を紹介していただいた。また、7月には目黒地域会と合同で「建築の日本展」見学会を実施。
- 中央建築三会の立ち上げ：昨年夏以来、土会、事協会とも打ち合わせを進めており、近く、中央建築三会を立ち上げる。地元中央区からの期待も大きく、三会が緊密に連携しながら、これまで以上に地域に根ざした活動を行う。 (G建築総合研究所)

## 城南地域会

代表 松本 裕



- 大田、品川両区は木密エリアが広く、空き家問題等も大きな課題を抱えている。一方、利便性等から駅前再開発が既存の商店街等に影響を及ぼす事態が身近に迫っている。当地域会は設立当初より地域の区民、行政、専門家等、横軸のコミュニティの形成を主とした活動を目指している。年初に際し1泊2日の研修会合宿を経て、本年度の年間活動方針と日程を決定した。
- 第17回「城南散歩」は路地文化の歴史的一例として銀座の路地を岡本哲志氏の案内にて探索。京都、大阪等とは異なる銀座の路地文化は時代とともに洒落てきている。第18回は品川の商店街(武蔵小山、戸越銀座)を探索。前者はアーケード、後者はオープンタイプ。どちらも地元商店会が一丸となって商店街の活性化を目指している状況は素晴らしい。
  - アーバン・トリップは新潟県の十日町、長岡市、魚沼市の町並みと建築を冬の風景を思い浮かべながら秋に訪ねた。地域の風景と単体の近代建築との取り合わせの景観は評価に苦勞する。
  - 第8回「ふれあいフォーラム」は「みちとまち part 3」を岩見良太郎氏の基調講演と行政の方々を交え対談を行った。
  - 4月から7月にかけて、会員有志による品川区簡易プロポーザル公募型「品川区歴史的、魅力的な建築物調査」に応募。一次審査通過後の落選は日頃地域活動に携わっている故、残念な結果であった。
- (松本建築設計事務所)

## 城北地域会

代表 鈴木和貴



主な地域会活動は、1) 地域会誌『KNIT』の発行、2) まち歩きやセミナーの開催、3) 空間ワークショップの開催でした。

●2月に『KNIT』#5を発行。特集は「つながりを見つけて」。人やモノ、街や風景、季節の移ろいなど、さまざまな事象の中で大切であると思うつながりを見つけ、それをどのようにして活かせば良いのか。そして、そのことで、より豊かな心や心地よい街となれるのかを考えました。●まち歩きは城北4区をそれぞれ巡りました。豊島区では目白台東端に残る邸宅などを見学。板橋区では旧前谷津川の川にまつわる生活に想いを馳せるもの。北区では旧岩淵本宿界隈に残る名所旧跡と地域でのまちづくり活動をうかがい、練馬区では旧川越街道や旧田柄川を経て石神井川沿いの景観と築150年の古民家を改修した施設を見学。それぞれ、地域の歴史や文化的な背景の再考です。●8月のセミナーでは、前年度まで練馬区の「みどりのまちづくりセンター」で所長をなされていた小場瀬令二氏をお招きし、同センターでのご経験も踏まえた地域でのまちづくり活動や住民参加による協働のあり方などのお話をうかがいました。●空間ワークショップは、2回の開催とも小学6年生を対象とし、計125人で16棟の思い思いのイエを創り上げました。地域会会員以外の方にもファシリテーターとして協力していただいています。

(PAX建築計画事務所)

## 港地域会

代表 村上晶子



MASセミナーは港地域会の建築家と市民の方で語り合えるひとときを提供しています。年間テーマから導かれる各会のテーマに対して、それぞれの想いを語り、会場に来られた方のご意見もいただく双方向の会です。昨年までは「みんなで考える町と建築の未来」と題して回を重ねてきましたが、30回目を迎えることになり、建築の原点を話そうということで、今年度からのテーマは「建築の祖型」としました。これは宗教学者のミルチャ・エリアーデの言葉で、超越的な起源をもち、この世の初めに啓示された慣例の規範と行動の規範ということです。人と人を関係させる建築のあり方、建築の原点に想いを馳せていきたいと考えています。今年度は、第28回7月21日「素なることと多様な相」(村上晶子会員担当)、第29回12月8日「建築の素材と光」(田口知子会員担当)、第30回3月23日「人と空間」(宮田多津夫会員担当)を行いました。参加者の年齢層も90歳の御高齢の方から小学生まで幅広く、楽しい知的なひと時を過ごしています。懇親会でさらにディスカッションが盛り上がり、参加者の方のリピーターも多く、話を深く掘り下げることもでき、建築という文化を発信したいと考えています。地域会での毎月の例会の中心は、このMASセミナーのテーマとその内容、文化としての建築について語り合うことに最も時間をさいています。

(村上晶子アトリエ&パートナーズ)

## 目黒地域会

代表 木村丈夫



定例会は原則として毎月最終水曜日に開催。また恒例のまち歩きを1回、街かどトークを1回行った。年度後半の定例会では、会員によるショートレクチャーを4回実施した。

●第15回「まち歩き」(6月9日):「目黒区景観計画アドバイザー会議の建築を巡る」と題し、初代目黒区景観アドバイザーを務めた松原忠策会員の説明により、主に山手通り沿いでアドバイスされた事例を視察した。

●7月25日:六本木ヒルズ森美術館での「建築の日本展:その遺伝子がもたらすもの」の見学会を実施。区民の方と地域会会員と一緒に過去と現代の日本建築を概観できて、大変有意義な勉強会となった。(詳細は『Bulletin』2018秋号に掲載)

●9月2日:区立東山中での目黒区応急危険度判定訓練に会員4名が参加。

●第9回街かどトーク(3月27日):「変わりゆく西小山の街を通して見る人による街のあり方」と題し、地元で活躍する加藤雅明会員と地元で街づくりに携わる方々のお話をうかがった。

●定例会:10月は岡野正人会員による「新しい潮流の宿泊施設」、11月は伊藤正会員による「北欧の人にやさしい環境づくり」、12月は新規会員の平井充さんによる「自己紹介と最近の仕事」、2月は木村丈夫による「ジョージア、アルメニアの食と建築」のショートレクチャーを行った。〈タオアーキテクツ〉

### ●地域会一覧(2018年度)

	県名	地域名	代表者
1	神奈川	神奈川地域会	小泉雅生
2	千葉	千葉地域会	榎本雅夫
3	埼玉	埼玉地域会	村田行庸
4	茨城	茨城地域会	根本洋一朗
5	栃木	栃木地域会	阿久津新平
6	群馬	群馬地域会	小林光義
7	山梨	山梨地域会	奥村一利
8	長野	長野地域会	荒井 洋
9	新潟	新潟地域会	平原 茂
10	東京	中野地域会	小西敏正
11	〃	三多摩地域会	高田典夫
12	〃	杉並地域会	堀 正人
13	〃	新宿地域会	小倉 浩
14	〃	城東地域会	岸 成行
15	〃	文京地域会	手嶋 保
16	〃	渋谷地域会	南條洋雄
17	〃	世田谷地域会	柿崎豊治
18	〃	千代田地域会	太田安則
19	〃	中央地域会	小田恵介
20	〃	城南地域会	松本 裕
21	〃	城北地域会	鈴木和貴
22	〃	港地域会	村上晶子
23	〃	目黒地域会	木村丈夫

# 2019年度 活動方針



関東甲信越支部  
支部長  
藤沼 傑

今年度はこれまで以上に行政との連携強化が必要です。特に今年改正された告示98号の適正な運用、多様な発注方式の長所短所について協議を重ねていく必要があります。また、この数年議論してきた首都圏、特に東京でのJIA活動をどのように維持発展させていくかについて、具体的な方針を示していきます。

これまでの協議の結果として、5月役員会にて事業調整WGを設置し、2019年総会にて、都内地域会から役員は1名以内と支部役員選出規約を改定しました。

これまでの議論の繰り返しとなりますが、今後の協議の前提は下記となります。

——これまでの活動は継続させる。

——行政との連携を強化する。

——東京の地域会と県域の地域会とは分けて考える。

同じ地域会という名前ですが、都内と県域とは行政をはじめとした活動の対象が全く異なりますので、それぞれの状況に応じた対応がまずは必要です。

活動を継続できる条件として、適正な人数と地域が影響します。東京の課題は、世界でダントツに大きい3000万人のメガロポリスであることです。会員は東京に集中していますので、東京をひとつのくくりとすると人数が多すぎます。現在の14の都内地域会は個々に見ると人数が少ないですが、全体ではアクティブ会員が100人規模となり、まともな協議はできなくなります。

人数的には、現行の14は多すぎて、その半分程度が適正といえます。しかし、具体的な分割案をつくと、現行の活動面でどうも馴染まない。さらに、今後の新たな活動を想像した場合、現行の分割では馴染まず、活動内容によって地域が異なってきます。

首都圏で生活している面白さは、活動に応じて地域を自由に縦横に移動できることです。一昔前までは、横浜から大宮に行くには、事前に十分に準備して出かけるという意識がありました。今は、SNS、アプリと鉄道の直通運転により、近所の散歩とほぼ同じ感覚で首都圏を縦断できるようになりました。SNSの初期mixiは2004年から、LINEがサービスを始めたのは2011年です。都内地域会を設立し始めた2005～2007年頃とは、活動媒体

に革命的变化があったといえます。JIA活動も時代に合わせて適応させていかなければなりません。

建築家の活動により、個々の建物だけではなく、まち全体が豊かになるということが我々団体活動の最も重要な要素ですが、そのためには都市計画を担う行政との関係が不可欠です。東京都建築士事務所協会や東京建築士会は区ごとに組織をつくり、区との接点を強化しています。各区で建築三会の一員としてJIAが存在する必要がありますが、人数が圧倒的に少ないJIAが他団体に負けない発言力を維持するためには何らかの知恵が必要です。都内でも区によって団体への対応方法は異なりますので、それぞれの状況に応じた行動が必要となります。行政との連携方法については都内地域会の課題だけではないので、県域も含めた地域会と行政との関係についての情報交換を、今年はさらに強化していきます。

委員会活動も行政への発言力を維持するためには、各地域会と連携し、実情を踏まえた対応と対策が必要です。今年も委員長会議と地域サミットを合同開催しますが、情報連携を促進するため、ワールドカフェ方式などいろいろな会議方式を試行していきます。

JIA活動を持続するためには、何よりも次の世代の活動参加が重要です。5月の役員会で、こども空間ワークショップを支部事業とすることになりました。開催回数も多く、人数も必要ですので、JIA活動を始める良いきっかけとなります。一度でもぜひ参加してください。

以上をまとめますと、昨年度とほぼ同じ内容ですが、今年度支部活動主要方針は下記となります。

- 社会に発信する。
- 若手が活躍する場を提供する。
- 支部内の情報連携を強化する。
- 収支をバランスさせる。

収支バランスとは、活動発展のための会費以外の収入を確保することです。助成金をまずは確保し、ご協力いただいている皆様にもJIAの活動に積極的にご参加していただきたく、本年もよろしくお願ひします。

# 2019年度 関東甲信越支部総会の報告



総務委員長  
榎本雅夫

5月21日に開催された通常総会の概要をご報告します。開会に先立ち、出席正会員56名・委任状出席者587名、合計出席者643名。支部規約第9条3により総会通知時点の正会員数1,700名の10分の1以上であることから本総会が成立する旨、浅尾悦子事務局長より報告された。

## ■議長団および議事録署名人の選出

藤沼傑支部長のご挨拶後、議長に榎本雅夫幹事長、副議長に大山早嗣常任幹事、議事録署名人に中尾利弘、松枝雅子両会員の2名が指名され、議事が開始された。

## ■第1号議案 2018年度事業報告承認の件

高階澄人副支部長より報告があり、その後採決を行い、賛成多数で承認された。

## ■第2号議案 2018年度収支決算承認の件

浅尾事務局長より報告があった。200万円強の黒字会計で公益事業比率は68%となった。予算と比して黒字が増大した要因として、昨年の全国大会(東京開催)の黒字が反映されたことが最も大きく、また委員会活動の収支改善の取り組みや支部HPと『Bulletin』の見直しによる効果もあった。次に、東條隆郎、赤羽吉人両監査を代表し、東條監査から監査報告があった。安達治雄会員より、地域活動運営費が全額公益費として計上されていることの説明が求められ、浅尾事務局長より、それが本部からの指導である旨、回答があった。その後採決を行い、賛成多数で承認された。

## ■第3号議案 支部役員選出規約改正の件

藤沼支部長より、支部幹事の各地域会割当枠の1名を1名以内と変更し、都内地域会からの選出に柔軟性を持たせること、また今後詳細(細則)の手続きをすすめる旨、説明があった。安達治雄会員より、地域会枠の0か1かを執行部側で決めるものでないことを議事録に残すよう要望が出された。その通りの趣旨であるとの藤沼支部長の回答に続き、松枝雅子会員より議事録に明記することの確認があった。その後採決を行い、賛成多数で承認された。

## ■第4号議案 支部役員及び支部監査選任の件

浅尾事務局長より、幹事16名監査1名を選任する件

の説明があり、その後採決を行い、賛成多数で承認された。

## ■報告事項1 2019年度活動方針について

報告事項1、2について藤沼支部長より説明があった。

- **社会に発信するJIA**：1. 告示98号の適正な運用に向けた丁寧な説明が必要である。各自治体が進めている追加的業務の算定ガイドラインに関する情報共有、適正な予算の確保を働きかける。／2. 品川区大井町駅前コンペに伴いJIAは発注者支援業務を受託、3月末に完了した。設計者の実績を問わない同様の事例を支援することで、若手の公共工事参加の機会を増やしたい。／3. 建築関連法規の時代に適合しない部分を丁寧に拾い、自治体に政策提言を行う。
- **JIA会員へのサービスを向上させる**：若手建築家の育成を最重要ミッションとしていきたい。今年は会員集会、新会員の集い等において、より魅力的なサービスを展開したい。
- **支部・地域会を中心とした活動の推進と連携**：地域会活動をいかに継続、発展させるか議論の結果、東京都内と地域の地域会を分けて考える。都内は特有の問題を抱えており、事業調整WGにおいて具体的に議論したい。
- **公益社団法人として持続可能な会の運営を図る**：助成金の活用、協賛金等により収入の確保に努める。SDGs、CSR活動を踏まえ、JIA活動を社会に向けて発信していくような内容にしたい。

## ■報告事項2 2019年度収支予算について

会員数の減少傾向を受け、収入は厳しい予測を立てている。TV会議の活用による交通費削減等、具体的な支出減少策を図る。

以上をもって議案等がすべて終了し、閉会となった。

総会終了後、「地域会活動の近未来」と題して会員集会が開催された。神奈川、群馬、新宿、渋谷、各地域会それぞれに特色のある活動紹介は、JIAと地域社会との密接な繋がりを改めて感じると同時に、多様な活動が地域会の枠を越えて広がっていくことが期待できる機会となった。

関東甲信越支部

# コンペ・アワード・学生コンクール

2018年11月～2019年5月に実施されたコンテスト一覧

JIA 関東甲信越支部では、支部・地域会・部会が単独または共同で主催するコンペやアワード、学生コンクールが多数開催されています。これらは、建築文化の価値を社会に発信する活動であり、会員にとっては交流や研鑽の場となり、建築家を目指す学生にとっては建築家と接することでその職業を知り、また JIA について知るきっかけにもなります。

今まで『Bulletin』では、毎年行われているこれらコンテストの一部を誌面で報告してきましたが、同時に今までまったく報告できていないものもありました。今回は

改めてそれらをまとめ、この1年(2018年11月～2019年5月まで)に開催されたものを一覧にしてみました。

今年新設された、城東地域会主催の「なりたて建築士のための設計コンペ」(p.24)と、住宅部会主催の「住宅部会賞 10宅選」(p.25)も紹介します。

(『Bulletin』編集長 長澤徹)

※卒業設計関連のコンクールは、基本的に各地域会のコンクールの上位入賞者が、6月に開催される本部主催の「JIA 全国学生卒業設計コンクール」への出展作品として推薦されます。

※一覧表のコンテストは、アニュアルレポートやHP等で紹介されているものを掲載しています。

## ●建築家対象

主催	催事名	公開審査日	応募条件	賞	審査員 (◎は審査員長)
神奈川地域会	JIA 神奈川デザインアワード	2月24日(日) (かながわ建築祭にて)	JIA 神奈川の会員または応募時に JIA 神奈川の会員に申し込みをしている者。	最優秀賞、優秀賞、審査員賞	野沢正光◎、近藤哲雄、馬場兼伸
神奈川地域会	茶室デザインコンペティション	2月24日(日) (かながわ建築祭にて)	JIA 正会員または準会員、設計業務に携わる建築士および学生。	優秀3案は1/1で製作し展示。その中から最優秀賞を選出。	小泉雅生、室伏次郎、堀越英嗣、金箱温春
城東地域会	<b>新設</b> なりたて建築士のための設計コンペ ▶ p.24 で紹介	4月13日(土)	2018年度一級建築士試験合格者	最優秀賞、優秀賞、奨励賞(今回は奨励賞2作品のみ選出)	速水清孝(ファシリテーター)、城東地域会メンバー
住宅部会	<b>新設</b> 住宅部会賞 10宅選(アワード) ▶ p.25 で紹介	2月20日(水)	住宅部会に所属する建築家が、住宅部会の理念に基づいた住宅作品を1人1作品まで応募可能。新規入会者も対象。	10宅選、渡辺武信賞、部会長賞	高橋隆博◎(選考委員長)、渡辺武信(特別選考委員)、郡山貞子(選考委員)

## ●学生対象

主催	催事名	公開審査日	参加校	賞	審査員 (◎は審査員長)
修士設計関連					
関東甲信越支部 / 大学院修士設計展実行委員会	大学院修士設計展	3月9日(土)	関東甲信越エリア(1都9県)の大学院が、専攻ごとに優秀な修士設計を選考して応募(1専攻2作品まで)。 26大学、28専攻 48作品(公開審査44作品)。	最優秀賞、優秀賞、奨励賞	山本理顕

主催	催事名	公開審査日	参加校	賞	審査員 (◎は審査員長)
<b>卒業設計関連</b>					
関東甲信越支部 ／学生デザイン 実行委員会	東京都学生卒業設計 コンクール	5月18日(土)	東京都内の建築系学科の卒業制作を対象に、各学科の推薦を経た毎年約50数点。	金賞、銀賞、銅賞、各審査委員特別賞。上記以外に実行委員会奨励賞を選定。入賞者はJIA全国卒業設計コンクールへ出展。	西沢立衛◎、手塚由比、羽鳥達也、斎藤精一、田根剛
神奈川地域会	神奈川卒業設計コンクール	2月24日(日) (かながわ建築祭にて)	神奈川大学、関東学院大学、慶應義塾大学、東海大学、東京工芸大学、明治大学、横浜国立大学	金賞、銀賞、銅賞、審査員特別賞、総合資格学院賞。金賞と銀賞は全国卒業設計コンクールに推薦。	木下庸子◎、遠藤克彦、仲俊治、原田麻魚
千葉地域会 (合同主催)	千葉県建築学生賞 (千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会、建築学会関東支部千葉支所と合同主催)	3月9日(土)	千葉大学、千葉工業大学、東京電機大学、東京理科大学、日本大学、明海大学、千葉職業能力開発短期大学校、千葉県立京葉工業高等学校、千葉県立市川工業高等学校、千葉県立東総工業高等学校	最優秀賞、優秀賞、特別賞、市民賞、奨励賞、千葉県建築設計士が選ぶ作品賞	田端友康◎、磯野智由、蒲生良隆、関谷和則、貞弘清英、西山芽衣、田村裕希、佐々木達郎
埼玉地域会 (共催)	卒業設計コンクール (主催:埼玉建築設計監理協会)	4月14日(日)	芝浦工業大学、東洋大学、東京理科大学、東京電機大学、工学院大学、武蔵野美術大学、日本大学、ものづくり大学、日本工業大学、日本女子大学、京都造形芸術大学	埼玉県知事賞、準埼玉賞、埼玉建築設計監理協会賞、他。JIA埼玉賞(2作品)は、全国学生卒業設計コンクールに推薦。	参加校各校の先生1名ずつ、埼玉県、さいたま市、JIA埼玉ほか各1名、埼玉建築設計監理協会より数名による投票審査
栃木地域会	JIA栃木クラブ賞	3月17日(日)	宇都宮大学、足利大学、小山工業高等専門学校、宇都宮メディア・アーツ専門学校	参加者作品すべてを栃木クラブ賞とし、最優秀賞1作品を全国学生卒業設計コンクールに推薦。	西田司◎(特別審査員)、地元若手建築家2名(招待審査員)、栃木クラブ会員
群馬地域会	JIA群馬クラブ学生卒業設計コンクール	3月30日(土)	前橋工科大学(建築学科、総合デザイン工学科)	優秀な作品は全国学生卒業設計コンクールに進む。	山梨知彦◎、藤沼傑支部長+北関東甲信越地域会会員6名
山梨地域会	山梨県高校卒業設計コンクール	2月6日(水)	山梨県立甲府工業高等学校、同定時制、山梨県立富士北稜高等学校(山梨県立境南高等学校は、学校再編、統合により不参加)	金、銀、銅、奨励賞	奥村一利、奈良田和也、網野隆明
長野地域会	長野県学生卒業設計コンクール	2月17日(日)	信州大学、上田情報ビジネス専門学校、長野県飯田OIDE長姫高等学校、長野県上田千曲高等学校、長野県長野工業高等学校、長野県池田工業高等学校	大学、専門学校、高等学校の部で金賞、銀賞、銅賞、奨励賞。大学の部金賞は全国学生卒業設計コンクールに推薦。	原田真宏◎、藤沼傑、大橋秀三、荒井洋
新潟地域会	JIA新潟県内大学卒業設計コンクール	3月10日(日)	新潟大学、長岡造形大学、新潟工科大学、新潟職業能力開発短期大学校	金賞、銀賞、銅賞、特別審査員賞	藤村龍至(特別審査員)、JIA関東甲信越支部の役員、新潟、群馬、長野の各地域会員
千代田地域会	千代田区を舞台にした学生設計展	2018年 11月18日(日)	千代田区内を舞台にした修士設計、卒業設計、学部課題設計	最優秀作品賞、優秀作品賞	学生展実行委員会
<b>その他</b>					
関東甲信越支部	JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール (共催:北関東甲信越各地域会)	3月30日(土)	北関東甲信越(山梨、長野、群馬、新潟、栃木、茨城)の6県の大学、専門学校、工業高校の住宅系課題が対象。大学、専門学校は最終学年以外の学生が集まる。	高校生の部:金賞、銀賞、銅賞。大学・専門学校の部:金賞、銀賞、銅賞。全体から審査委員長特別賞、支部長賞、各地域会賞。	山梨知彦◎、藤沼傑支部長+北関東甲信越地域会会員6名
新潟地域会	学生課題設計コンクール 新潟県内発表会	2月23日(土)	新潟大学、長岡造形大学、新潟工科大学、新潟職業能力開発短期大学校、新潟日建理工科専門学校	金賞、銀賞、銅賞。入賞作品は、北関東甲信越学生課題設計コンクールに推薦。	参加者全員

# 新設「なりたて建築士のための設計コンペ」

開催日時：2019年4月13日(土) 13時～  
会場：JIA館1階 建築家クラブ



城東地域会  
杉山英知

城東地域会主催、総合資格協賛で初めて行った「なりたて建築士のための設計コンペ」は、全く新しい試みだった。一級建築士試験の二次試験である設計製図試験をそのまま利用し(建築教育技術普及センター許諾済み)、試験の時にあったしがらみをなくし、「建築家として設計するとどのような提案があるのか」をテーマに、今年の一級建築士合格者のみを対象として行った。過去に本試験課題をそのまま利用するコンペは例がなく、どのような応募案があるかもわからないなかで進めた。

本コンペを始めようと思った大きなきっかけは、学生が学校を卒業してからJIA入会までの間をつなぐ何かを作りたいからである。入会までは一級建築士を取ってから5年経過しなくてはならない。学生時は学生向けの卒業設計展や修士設計展があるが、卒業してしまうと何もない。若手会員を増やそうと言っているが実際の動きは表立って見えるものは少なく、この空白の(最短)5年が非常にもったいない。そこで、このコンペを行うことで、一級建築士に合格し、晴れて建築家のスタートラインに立った若手を応援するようなイベントができないかという思いで2年がかりで実行に移した。

おりしも、試験制度の改定の時期と重なり、士法改正のタイミングとなった。そこで、公開プレゼンテーション当日には、建築士法を研究され、『建築家と建築士』などの著者でもある速水清孝先生(日本大学工学部教授)に講演をお願いし、士法の成り立ちや現状、建築家と建築士、製図試験で何が求められており、今後どうなって

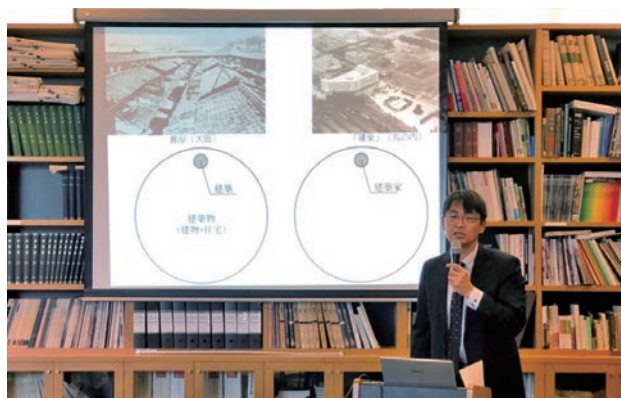


会場風景

いくのかなどをテーマにお話ししていただいた。

講演の内容は直接聞いてもらいたい(次回も速水先生に講演していただく予定である)。ぜひ、何かの機会に速水先生の話聞いていただき、士法にまつわるさまざまな想いや流れを知ってもらいたいのでここでは控えさせていただきますが、会場にいらしていた内田祥哉先生にも「ゾクゾクした、非常におもしろかった」と言っていただけの内容であった。

当日は30名近い来場者とともに、応募者の公開プレゼンテーションと速水先生の講演、そして参加者全員での討論会が行われ、大盛況の中で終わることができた。参加者からは次回への期待の声をたくさんいただいた。来年はより多くの方に参加していただけるように準備を進め、継続していきたいと思っている。



速水清孝先生による講演の様子



「なりたて建築士のための設計コンペ」公開審査の様子



# 新設「住宅部会賞 10宅選」

公開選考会 2019年2月20日(水) JIA館建築家クラブ  
発表・表彰 2019年3月20日(水)



2019年度住宅部会長  
2018年度住宅部会  
アワードWG主査  
中村高淑

住宅部会では、部会員の相互の交流と研鑽の活性化、および作品の顕彰を目的に、2018年度より「住宅部会賞」を新たに設立いたしました。

住宅部会に所属する建築家を対象に、住宅部会の理念に基づいた住宅作品を募集し、応募のあった34作品から2分間のショートプレゼンを経て、選考委員ならびに会場の部会員による投票によって5作品を選出し、発表・表彰を行いました。

### 住宅部会の理念

「建築物」は、建築主だけでなく、社会にとっても大切な資産です。住宅部会は、公益社団法人 日本建築家協会 (JIA) の理念に基づき、市民に最も身近な建築である「住宅」を通して、美しく住みやすい街と持続可能な社会、創造性豊かな住文化の構築に寄与することを目的としています。

### ●第1回「住宅部会賞2018 10宅選」

#### 10宅選 選出作品

- 「丘水庵 (KYŪSUIAN)」 片倉隆幸
- 「母と娘と4人の家」 高安重一
- 「3世帯8人家族の家」 田口知子

#### 渡辺武信賞

- 「路地の家」 関本竜太

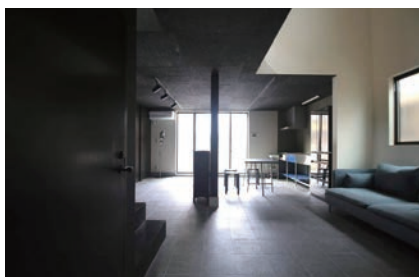
#### 部会長賞

- 「土浦の家」 高木恒英 (故人・特別出展)

- 選考委員長 : 高橋隆博 2018年度(第39代)住宅部会長
- 特別選考委員 : 渡辺武信 第6代住宅部会長、名誉住宅部会員
- 選考委員 : 郡山貞子 第30代住宅部会長



「丘水庵 (KYŪSUIAN)」片倉隆幸



「母と娘と4人の家」高安重一



「3世帯8人家族の家」田口知子



「路地の家」関本竜太



「土浦の家」高木恒英

### 住宅部会について

JIA関東甲信越支部住宅部会は、主に住宅建築の設計・監理を手がける建築家を中心に現在約80名が所属しています。

#### ■住宅部会の活動

- 1) 建築家の知識や能力を活用し、社会に貢献する活動をします。
- 2) 建築家の職能を社会に広める活動をします。
- 3) 会員の資質向上を図り、相互の親睦を深める活動をします。

#### ■活動の基本

公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部の部会であり、会員による自主的で、営利を目的としない活動を行います。

#### ■2019年度活動方針

設立44年を迎える住宅部会の歴史や理念に加え、「持続可能な住まい」や「建築家の職能」といった活動テーマを踏襲しつつ、さらに時代にマッチする多様で柔軟な活動方法や新しい工夫も試験的に取り入れながら、会員相互や社会との交流に重点をおいた活動を継続してまいります。老若男女、既存ベテラン部会員から中堅、若手会員、さらには一般社会にとっても魅力ある部会となるよう、「処士横議の場」として有益な企画や場を提供したいと思います。

# 正会員事務所のスタッフ向けに勉強会を開催

—次世代の建築家とJIAをつなぐ一助になれば—



北海道支部  
法人協力会 総務委員長  
弘田七重

北海道支部の法人協力会は活動が大変活発で、正会員との親睦会の他にさまざまな勉強会を開催しています。

その中でもとりわけ好評なのが、この「正会員の事務所スタッフ向け勉強会」です。日常の業務に追われるスタッフたちを正会員が送り出し、勉強+息抜き+横の繋がりを持ってもらおうという目的で2014年から始まりました。正会員向けの勉強会やセミナーはいくつもあります。次世代の建築家がJIAと関わるきっかけとしても大変有効な行事でもあります。

残念ながら正会員は参加不可なため、私は詳細は把握していません。

よって、協力会総務委員長の弘田七重氏に解説をお願いすることといたしました。

北海道支部 支部長  
遠藤謙一良



### ■新しい企画の模索

法人協力会総務委員長の弘田より、ご報告させていただきます。

きっかけは、マンネリ感を打破したいと新企画を検討しているときでした。正会員の方にヒントを求めたところ「事務所にこもりがちなスタッフたちに勉強や経験の機会を与えてほしい」という声をいただいたのです。そ

れまで正会員の事務所スタッフの方との交流は、大きなイベントをサポートしていただいたり、正会員向けのセミナーや親睦イベントに正会員の方に同行して参加いただく程度でした。事務所のスタッフは、将来のJIA正会員候補です。彼・彼女たちに直接アプローチする企画があってもいい、これこそ新しい展開にふさわしいのではと、法人協力会の委員間で話し合い、スタートを切りました。



2016年の勉強会会場

### ■声かけには工夫が必要

企画したのは、スタッフ「限定」の勉強会です。勉強会の後には懇親会を用意し、同世代で横の繋がりをつくる機会を設けました。分かりやすく明日にでも役に立つような内容にしようと考え、テーマを「やってはいけない、クレーム事例」とし、法人協力会4社がセミナーを行うことにしました。

多くの方からお申し込みいただけるものと意気込んでいたのですが、参加申し込みの締切日になっても、希望者はほんの2~3名。期待はずれな結果に大いに落胆し、正直、中止が頭をよぎりました。

しかし、スタッフの方にいくら声を掛けても、所長に送り出さなければ参加できないのではと気付きました。スタッフは毎日実務に追われています。仕事を置いて勉強会に参加するには、所内の理解と後押しがないと難しいでしょう。実際聞き込みをしてみると、この企画自体ご存じない方が少なくありませんでした。

そこで締切日を延長し、正会員の方に本勉強会の目的



2016年の懇親会の様子

や意図を説明して回り、事務所のスタッフの方を送り出してくださるようお願いしました。

結果、30名近い方からお申し込みをいただき、無事第1回目を迎えることができました。初めての試みに反省点もありましたが、会場内には熱気が感じられ、本企画の可能性を実感しながら成功裏に終えることができました。

### ■テーマは毎年変えて

多くの方に関心をもっていただけるよう、そして日常では聞けない内容をお届けできるよう、毎年テーマを変えて企画しています。例年、法人協力会の中から発表企業を募集していましたが、5回目となった2018年は、初めて外部から講師をお招きしました。昨年、北海道は台風と地震の猛威に晒された年でした。停電が長引き、エネルギーに対する不安を感じながら過ごした2ヵ月後に、本勉強会の開催が決まっていました。そこで、「災害に向き合い、改めて建築と都市について考える」というテーマを掲げ、ZEB、スマートコミュニティ、BEMS・AEMS、再生可能エネルギー、分散電源などを研究テーマとされている、北海学園大学の小柳秀光教授に講義をお願いしました。タイトなスケジュールの中での方向転換でしたが、我々法人協力会も含め、ぜひ聞いておくべき講義だと感じました。専門性が高く少々難しい内容ではありましたが、この年に開かれるべき会になったと思います。

### ■横の繋がりをつくっていききたい

本勉強会が他の企画と絶対的に異なるのは、「正会員の方は参加不可」というルールを設けた点です。スタッフの方限定としたほうが、より新鮮で自由な場になると考えました。結果、勉強会後の懇親会では、担当物件について質問し合ったり感想を述べ合ったりと積極的な交流が見られ、毎年、時間不足を感じるほどです。正直なところ、第1回目を終えてこの勉強会を継続していこうと決めたのは、懇親会での光景がとても魅力的に見えたからでした。法人協力会の中でも、個人的な繋がりが互いの仕事を助け合っています。アドバイスを受けたり仕事のモチベーションを高め合ったり、各々テリトリーは違いますが、JIAという場を活用して、自身の成長に繋がっています。我々と同様に、仕事の苦勞や悩みを打ち明けあえるような、若手の建築家同士を繋げる場になり、同世代の仲間の存在を刺激や励みにして設計業務に取り組んでいただけたら、と願っています。



2018年の勉強会会場

### ■ようやく5年目を終えて

毎年、参加者の方にはアンケートにご協力いただいています。プログラムについて、会場や日程について、今後希望するテーマについてなどの意見をうかがい、次年度の参考にしています。設問の中に「次回も参加しますか」という問いがあるのですが、9割以上の方が参加したいと回答してくださるので、法人協力会にとって大変励みになっています。

しかしながら、お声がけに苦勞する状況は、5回目を迎えた昨年でも変わっていません。スタッフの皆さんの忙しさは相変わらずで、仕事を置いて参加してほしいなど、我々には到底言えません。正会員の方に後押しいただく必要があると改めて感じています。それでも毎年30名前後の方にご参加いただき、さまざまなイベントの中で上位の参加人数を誇っています。

もちろん、魅力的な内容であることが大前提なことは承知しています。今年はどんなテーマにしようか、開催予定は秋ですけれども、春から構想を練っています。

### ■JIAが生き生きとした団体であるために

本企画をスタートした際、差し出がましいのは承知の上で、正会員増強の一助になればと思いました。学びや成長の機会を得て、かつ楽しんでいただいて、JIAへの関心を高めてほしいと……。その検証はまだできていませんが、本企画の成長が、若い世代へのアプローチになると思いつけ、今年6年目に突入します。若手不足の懸念は、正会員のみならず法人協力会にも言えることです。JIAが生き生きとした団体であり続けるために、法人協力会として何ができるか毎年模索していますが、間違いなく若いエネルギーの投入が不可欠で、そのためには、正会員と法人協力会がよりいっそう連携して取り組んでいく必要があると感じています。

# 実務訓練プログラムの実際

—JIAが実施する訓練制度の生レポートを中心に—



近藤 昇  
本部建築家資格  
制度実務委員会  
委員長



安達治雄  
職能・資格制度  
委員会 前委員長



内野輝明  
職能・資格制度  
委員会 委員長

## 建築家資格制度の実務訓練は現在、JIAが実施

この連載では、建築家の資格制度の本質が建築家の質の担保（公益保護）にあること、それを時間軸上の動態として見れば、実務訓練を通じて建築家を育てるシステムであることを、制度の歴史を踏まえて概観して来た。

そして日本で唯一UIA基準の資格制度を運用する「建築家登録認定機関（現在JIA内部に設置）」が目下公認している実務訓練は、JIAの運用するプログラムのみであることを紹介し、そのプログラム構成・運用の概要、今後への課題点も見ると同時に、実務訓練制度こそが建築家の質の客観的な可視化の基礎である点も確認した。

現在は民間資格である建築家資格制度を日本での建築家法制定への布石として見た場合も、制度に実務訓練とその後の試験・面接が備わってこそ、将来の国家資格の雛形たり得るのだ、という面も押さえておきたい。

今回は、国際的な視点でこの制度の価値を認めて訓練を受けて登録建築家になったシュム会員と、指導監督者として現在も実地に関わっている中山会員、実務訓練の成立当時に詳しい荒川会員の報告をご紹介します、「建築家を育てるシステム」の可視化を通じて建築家の社会的な信頼を得る道すじ、その現在形を見てみたい。

## プログラム参加者から見た実務訓練の実際



### 実務訓練プログラムで 広がった世界

フェイ・カイ・シュム  
(山下設計)

香港出身の私は2008年に建築学を学ぶために来日し、建築の仕事しながら2014年に一級建築士試験に受かりました。将来海外の建築仕事にも携わりたいと考えています。そのため、日本の一級建築士資格は他の国に承認されるかどうか調べました。その時、登録建築家の資格をはじめて知りました。UIA準拠の資格があれば、どこでも建築の仕事ができると思い、2015年に実務訓練プログラムに参加しました。3年後、無事に登録建築家に

なりました。これから、望ましい国際的な舞台で建築家のキャリアを築くことができると思います。

## ■ 普段の仕事の負担にならない

香港の実務訓練プログラムと比べて、JIAの実務訓練プログラムの申請・報告・審査の流れは簡略化されていて、定期報告書から最後の審査書類まで、文書やポートフォリオの作成時間が多忙な普段の仕事の負担にならないのは助かりました。基本となるのは、訓練期間中、半年に1回提出するA4 1枚の報告書です。

実務訓練プログラムの分野は範囲が広く、企画から竣工までの設計・監理プロセスだけではなく、設計事務所の経営や建築家の倫理、コミュニティに対する責任も含まれているので、技術者にとどまらない、社会責任がある一人前の建築家を育てることを期すものと感じます。

また、3ヵ月ごとの定期報告時に、指導建築家の上司と詳しく話ができるのはとても大切です。建築家の仕事は設計に留まらず、各部門間の協力や工事工程の調整等、人間関係に係る難題を抱えます。その時、上司というより建築家同士としての助言をいただけるのは幸運でした。

プログラムの3年間で、実務で建築設計プロセスをすべて経験し、社内教育プログラムやCPD研修講座に参加して他の分野も補足できました。CPD研修を続けたいのと、日本の建築コミュニティに対する関心から、昨年JIAに入会しました。すべて、実務訓練プログラムがきっかけです。

## ■ 実務訓練参加者を増やしたい

実務訓練プログラムを知っている人は少ないです。会社では私以外、実務訓練プログラムに参加する者がいないそうです。残念ですが、訓練中は指導建築家の上司とJIA関連の先輩しか交流できませんでした。もっと同期の実務訓練生や他の指導建築家とも交流できれば良かったと思います。

これから、実務訓練プログラムをもっと活かして、違う会社の若手を集め、意見交換を促進することを期待します。自分も実務訓練生の指導建築家になり、建築家理念の伝承に貢献していきたいです。



## 社会貢献できる 一人前の建築家育成の一助に

中山 貴  
(石本建築事務所)

2018年10月から、指導監督者として、「実務訓練ノート」を利用した訓練を実施しています。本ノートは、実務訓練に必要な履修科目、各科目ごとの定義、訓練終了時の主要能力、履修する細項目および実施方法がまとめられています。各履修科目の時間・単位数を、月間履修記録をもとに1ヵ月単位で実務訓練生が記入、3ヵ月ごとに内容について指導監督者がチェックを行い、指導、承認を行います。各履修科目に対して、最低必須単位数が決められており、3年以上をかけて取得すべき計700単位の取得により、実務訓練制度は完了する仕組みです。

### ■指導監督者として気付いた点

訓練を開始して半年過ぎようとしている中で感じた点を、理解不足な面は否めないのですが、以下に記したいと思います。

- 1) 月間履修記録の「4.基本設計業務の履修科目」については、基本計画業務と実施設計業務に比べて履修項目の内容が明記されず、ひとくくりで50単位となっています。基本設計の内容についても、多岐にわたって履修すべき項目があるので、基本設計業務における履修項目の細分化によってバランスさせる必要があると思います。
- 2) 現在、俯瞰的な視点での指導であり、実際の業務内容を細かく把握はしておらず、訓練者の自己申告による履修時間についてのバランスのチェック・確認が主体です。本来的には、所属部門の長によるチェックと指導を加えることが、より有効だと考えます。
- 3) 当然のことではありますが、所属部署・担当プロジェクトにより業務の偏りが出てきます。長い期間の中でバランスの良いOJT業務を実務訓練生に経験させるためには、この月間履修記録は有用と感じます。履修科目の具体的な時間、単位数を把握でき、訓練生に何が不足しているかがひと目で判ります。5年を目途とした基本・実施・監理等のバランス良い業務の遂行は、早期にひと通りの経験を積むと同時に、一人前の建築家への最短ルートとなり、組織事務所の総合力の底上げの貢献につながります。

今後は本制度の趣旨を理解しつつ、組織内での人材育成の教育プログラムにこれを組み込み、社会に貢献できる一人前の建築家の育成の一助になればと考えています。



## 若い建築家を育てるのが 資格の本来の姿

荒川晃嗣  
(テクトスタジオ)

私がJIAの建築家資格制度の本部実務訓練部に初めて出席したのは、2004年4月のことでした。その年の7月の実務訓練実施スタートに向けて、実務訓練ノートや運用マニュアルの作成で忙しい時期でした。ここの連載に書かれていたとおり、2003年に始まった当初、実務訓練により建築家を育成するために必要な指導監督者を生み出す目的で、実績により登録建築家を認定することにしたのです。従って本来、登録建築家となった方は、スタッフの実務訓練を指導し、建築家として育てる義務があります。そうやって若い建築家が育っていれば、今頃登録建築家の数はどんどん増えているはずですが、それが本来の建築家職能の姿です。

ところで建築家という法的な資格がない日本で、「設計者はいつ建築家になるのか？もしくはなったのか？」という素朴な疑問に対する答えはだいたい想像が付きまします。建築士になったとき、自分の設計で作品ができたとき、自分の設計事務所を主宰したとき、作品が社会的に認められたとき、自分で建築家と決めたとき、などの答えが返ってくるでしょう。でも、どれも正解ではありません。諸外国では、建築家の資格が法的に定められており、大学で建築専門教育を履修してから実務訓練を修了し、資格審査(または試験)に合格する必要があることと、建築家になった後も、継続教育プログラムを取得していくことが要求されます。従って前出の疑問に対する答えはこの一連の流れの中にしかありません。

2004年から15年の歳月が流れました。当初の目標では、とくに日本に建築家の法的資格ができていないといけませんが、相変わらずの状態が続いています。建築家資格制度がスタートした2003年頃の社会的背景には、WTO(世界貿易機構)が設立された後、サービス貿易を含む貿易の自由化が迫っていたことがあります。貿易の自由化が叫ばれるサービス業務の中に、「建築設計・監理」サービスが入っており、その専門的職能サービスを国際的なものにすることが必要でした。その時に、技術職の建築士しかいない鎖国状態の日本に外圧がかかり、新たな黒船が到来していたら、今の状況は大きく変わっていたでしょう。ところがその後の景気低迷、リーマンショックなどにより、日本および世界中がそれどころではなく、サービス業務の国際化はどこかに行ってしまいま

した。

米中貿易摩擦が深刻化する現在、日本がアメリカやEUから、いつサービス業務の自由化を迫られるかわかりません。トランプ大統領の次の目標は、サービス貿易の自由化かもしれません。それが起こってからでは遅いのですが、今のような状況が続くのであれば、我々はその外圧に期待するしかないのかもしれません。

### 資格制度の未来は、実務訓練が切り拓く

この連載をここまでお読みいただいた方々にはぜひ、前回の導入部の「**実務訓練は建築家になるための世界共通のプロセス**」と最後の「**登録建築家の質の可視化へ～その礎が実務訓練**」に、今一度お目通しいただきたい。連載における実務訓練の記述の核となる部分だからである。

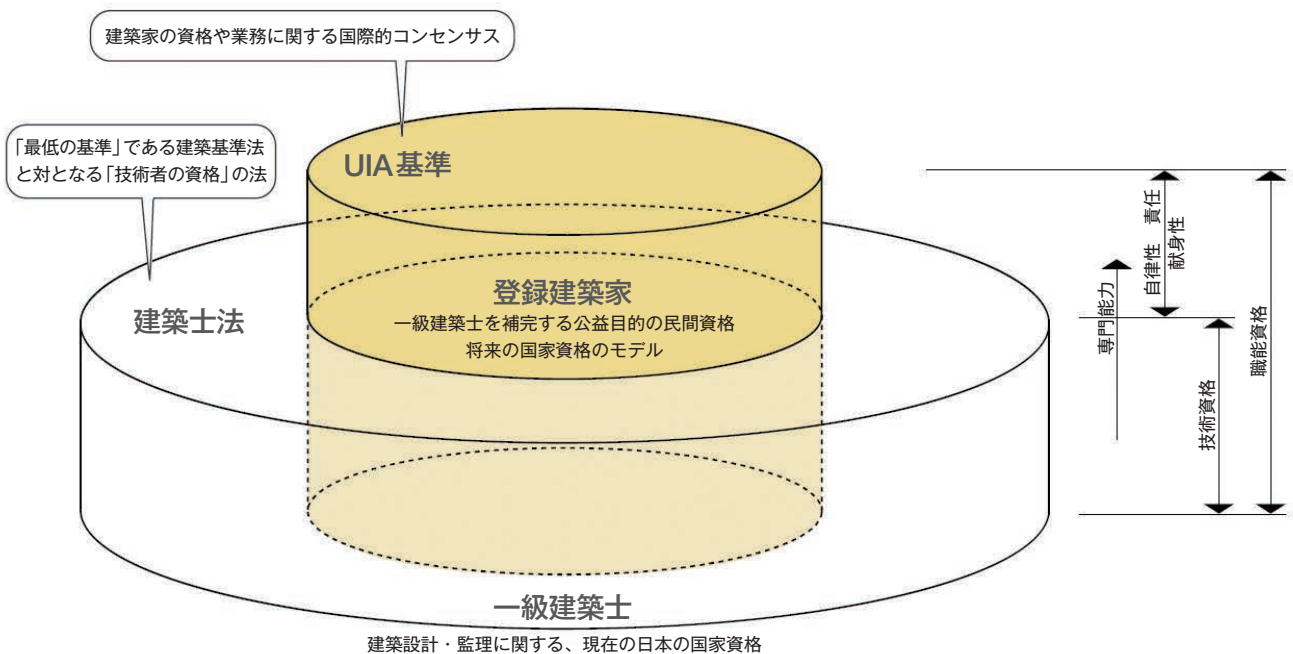
この実務訓練を資格制度の基礎として普及させる道すじについては前回、「NCARBの例などを参考に現実的な訓練方法を鍛えねばならない」と記し、必須単位と選択単位の効率化、全700単位や一級建築士資格取得の単位換算の再考にも言及した。しかし何よりも、すでに登録建築家になられている諸兄が事務所の若手を指導し、こ

の実務訓練制度に参加して下さることが今後、建築家の質を社会に向け可視化するこの資格制度の根幹を支える、普及の王道である点は、荒川氏のレポートの趣旨のとおりである。

実務訓練制度への参加によって、教えるべきこと、学ぶべきことを明確にし、日常の業務の中でともに学び合う意識をもつことは、生まれてくる建築・文化をよりいきいきとさせることにつながる。建築家憲章に掲げられている「たゆみない研鑽」が私たちの責務であることは言を俟たないが、シュム氏、中山氏のレポートを読むと、実務訓練を通して生まれる積極的な空気が、その「研鑽」を楽しさに変えていくことが伝わってくる。制度自身にとっては副次的な面かもしれないが、この楽しさこそがこの運動を推進させる原動力となるのではないか。

ぜひ全世界に通用する建築家の資格制度を、そんな楽しさの中で日本でも育てていきたいものである。

そして制度の将来には、第三者機関による運営の実現と、登録建築家になった者だけがJIAに所属できるという資格メリットが、望ましい大きな構図として描かれよう。読者諸氏の参加とご協力を願ってやまない。〈了〉



#### 〈連載に際し頂いたご許可〉

連載第1回「建築家資格制度の歴史」においては、2012年7月発行の『JIA MAGAZINE』の付録「建築家資格制度の『これまで』と『これから』 vol.2」の全体を下敷きとすることを執筆者の和智信二郎会員に了承いただき、これに今日の視点でさまざまな加筆をさせていただいた。また椎名政夫会員には欧州調査時の話をうかがっている。

#### 〈参考とした資料〉

連載にて言及したUIAアコードの内容は、最新の英語版から訳出ないし紹介したほか、連載第3回「実務訓練制度のあるべき姿と実施状況」での米国NCARBの実務訓練AXPに関しては、同ウェブサイトの詳細な記述からその新しい内容を抽出している。

# 師とコラボレーション

丹下健三とイサム・ノグチ



堀越英嗣

建築を志した頃、バックミンスター・フラーの『宇宙船地球号操縦マニュアル』に出会い、「シナジー」が心に残り、異分野のコラボレーションが建築の新しい可能性を開くと信じ、現在まで試行錯誤を続けている。

丹下健三先生の作品と、スタッフの名前も雑誌に載せる哲学に憧れ、師と仰ぎスタッフとなる。事務所ではフラットな関係で新人の私でも先生が来たときには設計案を通して話ができることは感激であったが、見てもらえる案を出せているのかどうか常に考えていた。さまざまな可能性を検討することが常で、先生が審査委員のコンペを毎日行っているようなものであった。しかし当選案を決めるのではなく、潜在的可能性を洗い出すため、凡庸な案も含めて長所短所を冷静に判断することが目的であった。少しでもアイデアが採用されることを目指し、徹夜も厭わず没頭するチームであった。可能性を先生が感じた場合は席を替わり、先生自らスケッチし、より斬新な案へと発展することもしばしばであり、その集中力に敬服した。カンヌフェスティバルホールのコンペの外観パースを担当した時、私の担当の正面は引きがなく極端にパースが掛かり外観全体がわかりにくい状態で描いていた。そこに先生が来て、「人の目の印象は1点からの焦点で見えてはいません。首が右から左に自然に動くときも一緒に移動し、正しい全体の形を認識しようとしませう。ですから1点の焦点で描くことは図学では正しいかもしれないが、実際の人を感じる全体の印象はもっと多様な視点で見ているものなので、デフォルメを恐れずに描きなさい」と教えていただいた。思えばこれは先生の尊敬するル・コルビュジェが目指したピューリズム、キュビズムをもたらす複眼的視点の話であり、建築の見え方についてまさに目からウロコであった。

後年当時のパリ市長ジャック・シラク氏から丹下先生に、いくつかの場所の中から仕事を選ぶ依頼があり、先生と私たち担当はパリの歴史的街並みと陳腐な近代の開発が広がる境目の「イタリア広場」を選んだ。最初敷地を越えて周囲の建物も含めて提案したことに市長は驚いたが、近代開発の失敗で失われた円形広場の景観を取り

戻すという先生の都市への問題意識の表明であることに感銘を受けていた。市民のためには発注者も敷地も境界を越えて説得することの大切さを学んだ。

丹下事務所の元スタッフのチームで始めたアーキテクトファイブでは、さまざまな分野の人と共同している。リチャード・ロジャース設計の歌舞伎町プロジェクトでは、丹下事務所でもアルジェリアでの経験を持つ構造の梅沢良三氏、米国で仕事された設備の佐藤英治氏という国際経験豊富な2人とチームで参加した。ロジャース事務所もコラボチームであり、ARUPやヨットの技術のハートランドエンジニアリングとの共同で手作りの機械時計のような建築として完成した。

師と仰ぐもうひとりイサム・ノグチと共同したモエレ沼公園では、私の旧友の友人であり設計中の仕事の施主がキーパーソンであった。彼をアーキテクトファイブのパートナーの川村純一夫妻がN.Y.のアトリエに招待した折に、イサム・ノグチの本質に感銘を受け札幌市長にイサムをお願いする仕事はないかと連絡をしたことから始まった。札幌市の計画の中で、ゴミ捨て場であったモエレ沼の航空写真にイサムは興味を示した。当時イサムは83歳であり、180haの計画は長い年月を必要とすることを思い、バトンを渡せる35～40歳の我々に「あなた方と一緒にやりましょう」と語った。計画にはジョージ・サダオなど、これまでの彼の協力者も参加した。1988年11月マスタープラン完成と同時にイサムは亡くなるが、その後これらの協力者のもと、2005年に完成する。17年間継続したコラボである。時代の先端の建築ではないが、中世の教会建築のような歴史の経過とともに生き続けるプロジェクトといえるだろう。空間・時間を越えたコラボレーションによる建築も、過去から未来へ連続して生き続ける建築の根源的姿の1つのように思う。



事務所で丹下健三先生から指導を受ける筆者

## 抱負を語る

### トリプル プロパティズ



平井 充

設計事務所のあり方が変わってきている。シェアハウスの運営やカフェの併設など、設計業務だけでなく事業を行うアトリエ事務所が一般化している。そんななか私たちの事務所では、常に3つのプロパティをカバーしている。1つ目は設計業務、次に歴史的建築の保存改修や修理修復であり、3つ目に海外への展開である。これら3つのプロパティは、時代に左右されずに安定的に事務所を運営できる可能性を担保していると考えている。



重慶事務所の風景

歴史的建築の保存改修や修理修復のプロジェクトは、専門的な知識や報告書作成業務、専門家のネットワークが要求される。これは、大学で建築史の研究をしていたことが大きな糧となった。次に私たちの事務所は、中国重慶市に支店がある。日本側では、デザインアーキテクトとしての役割を担っている。中国におけるプロジェクトは、規模が大きく数も膨大なため、CADの作図やCGを重慶事務所に対応している。

以上のような体制によって、東京の事務所は規模が小さくても興味のある仕事にチャレンジできる。これら3つのプロパティを行き来することは、異なるスケールや、論理的思考と感性を横断しながらプロジェクトを考えることになる。何事も3つであることで循環が生まれる。このような経験は、自身の成長に繋がると考えているし、なにより楽しい。これからの時代は、仕事を楽しめる環境こそ重要であり、遊びと融合したものでなければならぬと思っている。



長期計画で保存改修を行っている嵐山カントリークラブ (写真：鳥村銅一)

## 抱負を語る

### コミュニケーション デザイン



及川洋樹

#### コミュニティーアーキテクト

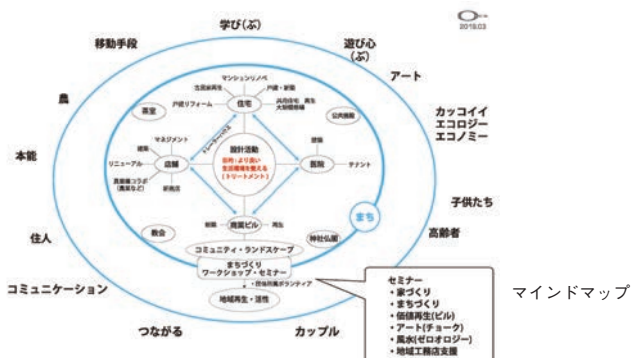
自己紹介の際、何を考え、建築活動に至っているのかを伝えるために、マインドマップ(下図)をお見せしています。私の目的は社会(身の回り)の生活環境を整える(トリートメント)という大義の下、建築以外の活動も含めて行動し、場合による手段としての「建築設計」を生業としています。全国各地で「まちを元気にしたい」という声があれば、そこへ行き皆で考える、その繰り返しで、最近では「まちづくり系建築家」と呼ばれることも多くなりました。

#### まちと工務店は一蓮托生の関係にあり

「地域工務店が中心となる地域づくり」というテーマで工務店の地域存在意義を強くする活動にも携わっています。工務店は数多くの方々に関わり、重機や設備があり、機動力がある。まちの中心で活動すれば、地域も工務店も関わる方々も元気になる、という仕組みを思い描いています。地域が元気になれば住民が増え、子供が増えて、家や店を建築しようとする気運も高まり、結果、工務店の活躍の場ができます。その逆も然りで、地域が衰退すれば工務店の仕事が減退することは想像に難くありません。現在、過疎地域での活動をやめて出稼ぎに行かれている工務店は、今一度、地元の在り方や未来を考え、地に足をつけて立ち向かっていただきたいと願っています。また、過疎化とは程遠いと思われる都会のコミュニティーにおいても、過疎地域と同様の問題は起きています。それらの問題解決の1つとして、空き家再生も含めた地元地域活動が未来の日本をより良くする第一歩だと考えています。



あしもり遊学舎



マインドマップ



# 計画助成における専門家派遣制度／ 専門性の表示



建築・まちづくり  
委員会 委員長  
連 健夫

## ■結果助成の限界

建築やまちづくりにおける助成制度の多くは、耐震改修や建て替え費用助成、高齢者自立支援住宅改修給付（バリアフリー改修助成）など、工事完了後に工事費用の〇分の1を助成するという結果助成です。これは利用者にとっては、改修や建て替えの決断をしない限り得られない助成制度といえます。

しかしながら、空き家活用や木密地域における耐震補強や不燃化、建て替えの判断は、利用者にとって難しいといえます。各自治体は、この制度を活用してもらうべく、講演+相談会をセットにして、不燃化セミナー等を実施しています。筆者も荒川区、世田谷区、台東区、江東区で講演や相談に関わった経験があります。行政は事前に地域住民に案内チラシを配布し、主だった場所にポスターを貼るなどの募集努力をしていますが、参加者は10人程度であり、相談も1~2件程度です。そこから実際にこの制度を利用する住民はわずかというのが現状です。これは、そもそも住民が、専門知識が乏しく自分の家をどう考えれば良いのか手探り状態なので、判断できないわけです。これを改善するには、専門家が関わり、アドバイスや具体案を元に検討するというプロセスが必要であることを、多くの関係者や専門家が指摘しています。

## ■方針を検討することができる「計画助成」

これについて、港区の「建替え・改修支援コンサルタント派遣」や日野市の「空き家等地域貢献専門家派遣事業補助金」、大阪市の「民間老朽住宅建替支援事業」、神戸市の「神戸すまいまちづくり公社街づくり専門家派遣」、京都市の「空き家活用流通支援専門家派遣」など、専門家の関与を得て、持ち主が今後の方向性を検討する「計画助成」が出てきています。いずれも専門家が行政に登録し、登録者リストから派遣専門家を選ぶ、というプロセスです。登録には、資格や経験などを記入、証明書類を提出し、それらの書類審査により登録されます。つまり、登録と選定という2つのフィルターをクリアすることによって専門家として派遣されるわけです。このためには、目的に合った専門家であることが客観的に分

かる資格、すなわち専門性の表示が求められます。専門家派遣の報酬は、港区の「建替え・改修支援コンサルタント派遣」では、1~2時間/回で13,000円~26,000円、10回までとなっています。当方の経験では、複数のゾーニング、計画案、概算の資金計画など、依頼者が判断できる材料を作成することができました。日野市の「空き家等地域貢献派遣事業補助金」は、50万円/年間で、対象地域によって異なりますが、概ね数回のミーティングやワークショップ、事前調整が行われています。当方の経験では、空き家の実態把握、空き家問題の共有、空き家の見守り方法の検討、見守り活動の試行まで実施することができました。

## ■専門性表示の必要性

一般には、建築士、建築家と言っても、どのような専門性があるのか分かりません。デザイン力を手掛かりに設計依頼を受け作品を作るというパターンでない場合の、多様な社会ニーズに応えるためには、専門性を何らかの形で表示しない限り、受け入れるのは難しいといえます。この意味で専門性表示として、登録建築家や専攻建築士、技術士や既存住宅状況調査技術者、JIA修復熟修了者、ヘリテージマネージャー、認定まちづくり適正建築士やADR調停人などの資格が大切になってきます。各資格はセミナー受講や経験など研鑽を経た上での取得となるため、建築士、建築家の資質向上が併せて行われる良さがあります。今後、建築士、建築家が支援やアドバイザーなどに関わる機会が増える中、専門性表示の必要性がますます求められます。



日野市、空き家専門家派遣での住民との会合

講演+相談会がセットになった不燃化セミナー

## 星野<sup>たかし</sup>尚氏に聞く タラセア技法で風景画を描き 木の面白さを伝えたい

今回お話をうかがったのは、スペインの伝統木工技法タラセアで絵画を描く作家 星野尚さん。スペインで伝統技法を学び、現在は世界でも数少ないタラセア技術保持者として、木象嵌の絵画を発表しつづけています。東京・世田谷の平成記念美術館ギャラリーで展覧会中だった星野さんを訪ね、タラセアの魅力や、その技法をさらに絵画芸術に高める独自の世界観を教えてくださいました。



— まずタラセアがどのようなものか教えてください。

タラセアは中世ヨーロッパで発達し、スペインに受け継がれている装飾芸術です。象嵌や寄木細工といった技法があり、1cmくらいの厚さにカットした着色していない自然の木を、80種類くらいの中から選んで組み合わせ、埋め込んだり嵌め込んだりして幾何学模様や風景画をつくり出します。現在でもスペインのアルハンブラ宮殿や、教会の天井・壁などで見ることができる装飾です。

私はタラセアの技法の中の象嵌を用いて風景を描いています。製作工程としては、厚さ1cmくらいの木を糸鋸で絵に合わせて必要な形に切り、それらを寄せ集めてパーツをつくります。そのパーツを象嵌の手法で埋め込んでいき、全部嵌めてから表面に鉋をかけて光沢を出して仕上げます。僕はひとつの作品で30~40種くらいの木を使いますが、木は種類が違えば繊維の方向も違うので、鉋がけは力の入れ方を変えながら慎重に丁寧に行います。また、建物だったら当然影があり、風景の中にもグラデーションなど濃い薄いがあるのですが、それを木で表現するのは難しいので、そういうところは焼きごてで焼いて影を描いています。

— どのようなきっかけでタラセアに出会ったのですか。

二十歳くらいの頃、両親に頼まれて大きなダイニングテーブルを探していました。そんな時、スペインで作られた、機械や金属を一切使わない木で組まれた手づくりのテーブルを偶然見て、その技術を習いたいと思ったのがはじまりです。まずは、スペインに留学したいから技術を教えてほしいと、大阪で木彫りの先生に弟子入りしました。留学費用を心配してくれた先生が額縁屋を紹介してくれて、そこで働いて給料をもらいながら木彫りの勉強をしました。



展覧会場で作品を見ながら説明してくださる星野さん



「海岸」(2016年作)

3、4年後に資金も貯まり、スペインに渡って工房を見つけたのですが、スペイン人はなかなか教えたがらず、弟子をとるようなこともありません。そんな時、美術大学で教えてもらえると知り、コルドバの美術大学で学ぶことにしました。そこにたまたまタラセアの大家の先生がいらっしゃったのです。先生はもう大学では教えていなかったのですが、工房に行って先生の仕事を手伝いながらタラセアの技術を教えてもらいました。先生は国から修復の仕事を受けていて、アラベスクが多いのですが風景もあったので、それをやらせてもらったりしていました。風景といっても今の作品よりもずっと単純なものです。

卒業後は、日本とスペインそれぞれで生活し、今は日本にアトリエを構えて活動しています。

— 伝統的なタラセアの技術を習ったということですが、今の星野さんの作品はそれとはまた違うようです。

スペインの伝統的な技法を学んだ上で、そこから表現方法を自分なりに変えて今の作風ができています。スペインではタラセアというとアラベスクが多く、僕がスペインで教わった先生も得意なのは風景よりもアラベスクでした。アラベスクは幾何学模様を入れるので、たくさん色を使いますが、僕からするとそれは色を入れすぎなのです。ヨーロッパの教会に行くとごてごての装飾が当たり前ですから、おそらく感覚が違うのでしょう。僕の作品はスペインの技術を使いながらも、木目を生かしたり、日本人の感性が出ているのだと思います。そして象嵌だけど組み木のようなものではなく、絵画風につくっています。おそらく同じような作品をつくっている

人はいないでしょう。

ヨーロッパで展示をすると、“ヨーロッパの伝統的なものと東洋の伝統的な美意識を混合した作品”と表現していただいたりします。

—たしかに星野さんの作品は木目がとても生きています。その使い方はどのようにひらめくのですか。

まず木を探す時は、その木が面白いかどうかだけで選び、デッサンに合ったものをイメージしながら探すわけではありません。あとこだわるのは色の木目と種類です。太い材料を買い、それをどのように伐るかによっても木目と色が変わるので、自分で伐ってアトリエに色の白いほうから並べ、ある程度集まってからデッサンを見てどの材料を使うかを考えます。

タラセアの面白いところは、見る位置によって木目の反射が変わり、作品自体は平面ですが立体的に見えるところです。例えば、見る角度によって海に浮かぶ小舟が浮き上がって見えたりします。それから、木は10年以上自然乾燥させたものを使うのですが、それでも収縮度の違いがあるので、時間が経つにつれて少しへこんだり動いたりします。そこに光が当たると当然反射率が変わるので、そこだけへこんで見えたり立体的に見えるのです。

—年月とともに作品が変化していくのですね。

2006年の作品と2014年の作品を見比べると、2006年の方が酸化して落ち着いた色になっているのがわかります。僕は酸化した方が好きなのですが、これは年数が経たないと味わえません。僕はブナ材をよく使いますが、それはブナ材は色の変化が大きく、それを作品に生かすのが面白いからです。もちろんお客様が作品を置いている環境によって変化の仕方は違いますが、それも楽しんでもらいたいと思っています。

木ですから色の変化だけでなく反ることもあるかもしれない……、でもそれを恐れて使うものを制限してしまったら、自分のつくりたいものがつくれません。自分は無名なんだから失敗してもどうってことないと思い、「間違った時は素直に謝れ」、「理屈を言うな」、「50歳までは知らないことは恥ずかしくない」、「プライドを捨てろ」と教えられたので、自分のデザインを曲げずにつくり続けています。

—スペインの風景を描くことが多いのでしょうか。

古い建物には圧倒されるような迫力があるので、そういうものを題材にしたいと思っています。その中でも、スペインやイタリアの田舎など、土臭い感じの風景が自

分には合っているように思っています。それも有名な場所ではなく街の一角を描くことが多いです。

ヨーロッパは当然石が多いわけですが、それを木で表現するので、見る方にはそれを石として見てもらわなくては困り、カーテンも木で柔らかな質感を出さなくてはならない。それを木の質感と色だけでつくるのは難しいですが、面白さでもあります。



「中庭（修道院）」(2012年作)

—星野さんのようなタラセアの技術を持つ方は他にいないと思いますが、後継者など、これからのことをどのように考えておられますか。

これからは、後継者になるような若い人にタラセアの技術を教えるということではなく、もっと小さい小学生や中学生に木に触れてもらいたくて、ワークショップを開いていきたいと思っています。木の額を用意して、そこに木の切れ端を貼って作品をつくる。プラスチックで遊ぶのではなく、木の面白さを子どもにわかってもらいたいですね。そういったことを通して、僕の作品のことも知ってもらい、木の文化を日本で繋いでいきたいと思っています。

建築家が設計した建物に作品を収めたことはありますが、より建築家とコラボレーションできたらと考えています。建物を建てる時に、オーナーの方が僕の作品を飾りたいと言ってくれることがあります。そういう時は、設計の構想段階から僕の絵を組み込むことを想定していただき、建築家と作品の世界観を共有しながら、一緒に空間をつくることができたら嬉しいです。

—貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

インタビュー：2019年3月9日

平成記念美術館ギャラリー、スタジオネオ

聞き手：中澤克秀・市村宏文・望月厚司(『Bulletin』編集WG)

#### PROFILE

星野 尚 (ほしの たかし)

タラセア絵画作家

1955年兵庫県生まれ。1981年スペイン、コルドバ国立美術専門学校卒業。1982年帰国後、大阪 不二画廊にてタラセアの初個展。その後、約40年にわたり日本とスペインで個展等多数。1993年には兵庫・尼崎市市民芸術奨励賞受賞。2001年には兵庫・伊丹市立芸術家協会 新人賞受賞。

## 交流委員会 Aグループ

## 親睦ゴルフコンペ



交流委員会  
法人協力Aグループ  
前田製管  
大島寛隆

交流委員会Aグループの恒例行事、「第29回親睦ゴルフコンペ」が、4月13日(土)に開催されました。

昨年秋のコンペは埼玉県入間で行いましたが、今回は静岡県伊豆市にある「中伊豆グリーンクラブ」で開催しました。中伊豆グリーンクラブは静岡県の東部、伊豆半島の中部に位置しており、コースは浅見勝一氏設計の妥協を許さないつくりで、ゴルフの醍醐味が大いに実感できるものになっています。

前日は大型台風が来たような悪天候で開催が危ぶまれましたが、当日は打って変わって天気恵まれ、良いコンディションとなりました。Aグループだけでなく、交流委員会の河野剛陽委員長をはじめ、B、Dグループからもご参加いただき、4組16名で開催することができました。

スタートの1番ホールは、コース名物の正面に富士山を望む豪快な打ち下ろしミドルホールです。気持ち良く、気分良くスタートできます。1番ホール以外も多くのホールで富士山や駿河湾を見ることができ、また、広いフェアウェイでコースメンテナンスも充実しています。これなら良いスコアが続出すると思いきや！各ホールはコース設計が戦略的で微妙に変化があり、グリーンのカップの配置も微妙なセッティングで、楽しさの中にも難しさが潜んでおり、前半は多くの参加者がなかなかスコアを伸ばせません。

前半のアウトコースが終了し、昼食でクラブハウスに戻ってきました。クラブハウスは、坂智男氏設計の心と体を静かに休めてくれる日本伝統の校倉造で、くつろぎと憩い、そして語らいの場を演出してくれます。クラブハウスからも富士山や南アルプスを望むことができました。レストランのメニューは、鰻、ステーキ、カツ、中華とバラエティに富んでいます。伊豆とあって名物として鉄板わさびステーキや中伊豆山葵丼、とろろ蕎麦などの他に、有名な三島コロッケなどのこだわりメニューが揃っています。三島コロッケとは、箱根西麓でとれた三島馬鈴薯(メークイン)でつくったコロッケです。三島馬鈴薯は標高50m以下の斜面地に広がる畑で作られる

もので、じゃがいもは、三島馬鈴薯だけを使用することが条件となります。揚げたてのコロッケは絶品でした。

食事でエネルギー充電後、午後のハーフが始まりました。難コースに苦しみながらも、午前中からプレーしてコースに慣れたこともあり、スコアが伸びる参加者が増えてきます。優勝は誰になるのでしょうか。スコアの集計が楽しみです。プレー後の疲れた体に、中伊豆源泉のpH9.7の美肌の湯がよく効きました。

プレー後のパーティーにて成績結果の発表。優秀な成績を取めた上位者等に賞品を授与しました。このコンペでは商品を持参いただくのですが、今回も素晴らしい商品が集まり、賞を取れなかった方々にも素敵な(?)参加賞を持ち帰っていただきました。そしてその後のパーティーも楽しく懇談することができました。

結果、優勝は日本コンクリート工業の滝戸開治さん。準優勝のトーヨーアサノの浅沼俊宏さんのおふたりがベストスコアだったのですが、コンペ初参加の特別ルールで準優勝となりました。次回は他の方々にも優勝を目指して頑張ってください。

前回よりは参加者が少ないながらも、1日を通して大いに盛り上がり、楽しい親睦ゴルフコンペになりました。今後も、他グループの方も含め、多くの皆様の出席をお待ちしております。参戦をよろしく願い申し上げます。



富士山をバックに記念撮影

## 交流委員会 Dグループ

## 建物見学会

## 「パーク 24グループ本社ビル」



交流委員会  
法人協力 Dグループ  
サカイ  
菅井雅美

ダブルスキンカーテンウォール。

それも曲がってる。

JR五反田駅前の国道1号線と目黒川が交差する角地に建つガラスのビル「パーク 24グループ本社ビル」。桜は散っていたが新緑が綺麗。抜群の眺望を活かしながら日射熱負荷を低減するという、いいとこ取りの外装だ。そんな透明性の高いビルの中をDグループメンバー34名と、設計を担当した日本設計の数名で上から下まで2時間たっぷり見学した。

至るところにグループメンバーの会社の製品が採用されており、現れるたびに嬉しそうな笑いのメンバー。そして採用されなかった苦笑いの私……。

このビルは、タイムズパーキングを運営するパーク 24(株)やタイムズ24(株)などのグループ会社の本社で、1階の入口から地下2階までの地下駐車場がすごい。収容台数はなんと100台！……らしい。というのも、当日は設備調整中で見学できなかったのである。通常地下立体駐車場とは全く異なる旋回式立体駐車場で、とても速く入庫・出庫ができるそうだ。今度試してみようと思う。何しろ、ここは時間貸駐車場タイムズパーキングなのだから誰でも利用できる。

個人的には2度目のDグループ建物見学会だが、JIAの活動に参加させていただいているからこそこのイベント

参加。懇親会での楽しみはさておいて、見学会は収穫が多い。材料メーカーにとって弱点である部分の営業ネタをしこたま仕込める。

我々を引率しながら、その場その場での質問に毅然と対応してくださった日本設計の千野さんと椋澤さん。終了後の懇親会での麻婆豆腐をつつきながらの会話と楽しそうな姿との落差たるや、最高の好印象です。大変お世話になりました。

最後に、今回の見学会を企画して実現までやり遂げてくださった興さんにお礼を申し上げて報告を終わらせていただきます。



## 〈建物概要〉

パーク 24 グループ本社ビル  
施主：パーク 24

プロジェクトマネジメント：  
新日鉄興和不動産

設計・監理：日本設計

施工：大林組

敷地面積：1,777.20㎡

延床面積：16,961.64㎡

建物規模：地上13階、地下  
2階、塔屋1階

建物高さ：58.80m

用途：事務所、駐車場、  
店舗

特徴：ダブルスキンカー  
テンウォール、  
水冷式輻射空調、  
空冷式輻射空調、  
旋回エレベーター  
式機械駐車



見上げたダブルスキンカーテンウォール



ダブルスキンカーテンウォールのアップ

## わたしの愛用ツール



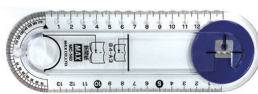
建設現場やオフィスで、皆さんはどんなツールを使っていますか？  
「わたしの愛用ツール」では、皆さんが普段仕事で使っている愛用品やマストアイテム、人に薦めたい便利なツールなどを紹介します。  
今回は、小規模事務所に最適な中綴じができる多機能スケールと、プランニングに欠かせないスケッチブックを紹介していただきました。

### 中綴じ作成ツール MAX MC-140

深滝准一



作品集をホッチキスで簡単に中綴じ



MAX  
多機能スケール  
「MC-140」

パソコンやカラープリンターの高性能化に伴い、これまで印刷に出していた事務所の作品集などをプリントして配付することが多くなってきた。ある程度の枚数になると厚手の用紙で中綴じ冊子<sup>\*</sup>にしたくなる。

最近の複合機では、両面印刷後にホッチキス留めまでしてくれる製品もあるが、小規模事務所では、このMAXの多機能スケール「MC-140」で十分である。ただし、一般的な10号ホッチキスで綴じるので、枚数はコピー用紙で10枚程度まで。

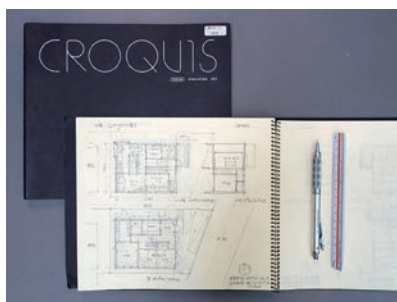
印刷後に用紙を半分に折り重ねてこのツールをセットし、ホッチキスを開いた状態でセットし留めると簡単に中綴じ製本が作成できる。価格も400円前後なので気軽に購入できる。

<sup>\*</sup>両面印刷をして紙を重ね、見開きの中心部分をホッチキスで綴じた冊子

(深滝准一建築設計室)

### maruman スケッチブック CROQUIS SS2

関本竜太



プランニングのお供として2006年頃からずっと使い続けている。CROQUISにもさまざまな紙質のものがあるが、このSS2は和紙のような適度なざらつきがあって鉛筆の乗りが良い。ツルツルしたトレペがどうも苦手な私にはうってつけた。手の汗も吸ってくれる。(敷地が大きいときはSL2を使用)

私の使い方は見開きの右側ではなく左側を使う。こうするとページを重ねて上下階の検討がしやすく、考えを発展させながら上書きしていくことができる。なによりリングでつながっているので、スケッチが散逸しないのも良い。表紙に時系列でラベルを張っておくと、過去の着想がすべてアーカイブできる。

ちなみに私はエスキースの際は0.4のシャープペンにBの芯を入れて使う。住宅のような繊細なエスキースの際は、0.3では細すぎ、0.5では太すぎる。これ1本で濃淡を調整し、プランをまとめ上げる。(リオタデザイン)

### ヴェネチアスケッチブック

茂木大樹



厚手の用紙は、水彩の重ね塗りやカラーズのハードユーズにも耐える。

「スケッチブックは建築家の手の延長である」。大学入りたてのそんなアジテーションを真に受けた僕たちは、一時期、大きなスケッチブックを持ち歩くこととなる。しかし、時代はCAD全盛。利用の少ない画帳の表紙はすぐさま堅く閉ざされ、ただただ重たい紙束の携帯を、多くの学生たちはリタイアしていった。

あれから10年以上が経ち、今でも、密かに鞆に忍ばせたA4超サイズのスケッチブックは、私の愛用ツールと言えるかもしれない。描くことを怠けた時期、ほとんど鞆から出さなかった期間もあったが、なぜか肌身離さず持ち歩いている。それは初志貫徹などではなく、ある種の意地か、コンプレックスに近いかもしれない。

時々思い出したように開いて、日常のスケッチやメモ、発想を自由に記録する。人に見せれば、気持ちやアイデアを素直に伝える媒体ともなる。手描きの楽しさと情熱を再起させてくれるスケッチブック。

(古谷デザイン建築設計事務所)

## 徒然に



小学校5年生の息子がいる。公園で友達と環になって、ボールを蹴っている。本当にきつと他愛もないことで、おなかの底から笑い合っている。遠くから眺めながら、何とも言えない気持ちになって、“花を踏んでは同じく惜しむ少年の春”というフレーズがあったな、何だっけと調べてみる。

中国中唐の詩人白居易の漢詩で、身分の格差を嘆く少しぐちっぽい詩の一部だそうで、

灯を背けては 共に憐れむ 深夜の月  
花を踏んでは 同じく惜しむ 少年の春

この二行だけを切り分けて、紫式部が源氏物語に引用するなど、日本人は好んだのだろうか。なるほど、紫式部も私も日本人。日本人好みとは。主観的でないことか。少し遠くに自

分を置いて、自然に尊敬と畏怖の念を抱くこと、などとぼんやり主観的に考えてみる。

建築にも普遍的な日本人好み、というのがあるのかもしれない。ないのかもしれない。よくわからない。

明るいう後の日は竹林にはえ、泉水はうれしげな音をたて、松籟はわが茶釜に聞こえている。はかないことを夢に見て、美しい取りとめのないことをあれやこれやと考えようではないか。  
(『茶の本』より)

時代が加速して目まぐるしく変わっていく中で、時折心底美しいことだな、と思う事柄は“日本的”なことが多いような気がする。  
(百瀬万里子)

## 夏祭り

## 編集後記

- 今年も盆踊りに参加したく思っています。できればまた郡上八幡で。(長澤)
- 息子も大きくなり、夏祭りで手をつないだ親子を見るとノスタルジーです。(関本)
- 今年から広報委員になりました。右も左もわかりませんが頑張ります！去年は見られませんでしたので、今年の花火は楽しみです。(望月)
- 今年も、事務所の前の坂道を通る山車や神輿を見守るのが楽しみな季節になりました。(会田)

- 6月中旬、地元の仕事の打ち合わせで帰ると、「吉原祇園祭」だった。30年ぶりに出かけてみる。いつもはシャッター商店街に人があふれていた。(中澤)
- “夏祭り”と言えば富岡八幡宮の水かけ祭りです。だいぶ前になりますが、高島屋の先輩のKさんに誘われ新川南町会のお神輿を担がせていただきました。行く先々で水を浴び、心身共に汚れを落とし、明日への希望を祈念する天下祭りでした。(立石)

編集 : 公益社団法人日本建築家協会  
関東甲信越支部 広報委員会  
委員長 : 市村宏文  
副委員長 : 中澤克秀  
委員 : 長澤 徹・会田友朗・古谷俊一・吉田 満・望月厚司・小林哲也・関本竜太  
編集長 : 長澤 徹  
副編集長 : 会田友朗  
編集ワーキングメンバー : 広報委員+中山 薫・八田雅章・立石博巳  
編集・制作 : 南風舎

Bulletin 280 2019 夏号  
発行日 : 令和元年7月15日  
発行人 : 浅尾 悦子  
発行所 : 公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA館  
Tel : 03-3408-8291(代) Fax : 03-3408-8294  
印刷 : 株式会社 協進印刷

■ JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧  
・(公社)日本建築家協会 (JIA) <http://www.jia.or.jp/>  
・JIA 関東甲信越支部 <http://www.jia-kanto.org/>

SANSHIN

有孔鋼板

# HARDY GRATING FLOOR

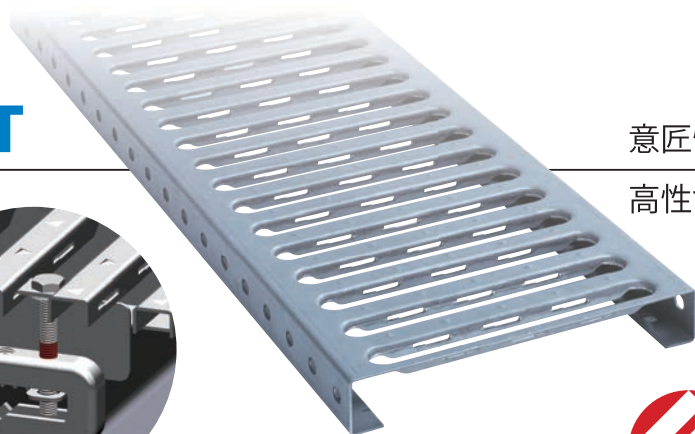
ハーディグレーチングフロア

## STANDARD TYPE



施工性に優れた  
スタンダードタイプ

## FULL FLAT TYPE



意匠性安全性に優れた  
高性能タイプ



GOOD DESIGN AWARD  
2017年度受賞

製造元

JIS日本工業規格認証取得工場



三進金属工業株式会社

■本社・工場（大阪府） ■福島工場（福島県）

【東京支社 建材部建材課】

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-3-15

TEL : 003-3669-0800 FAX : 03-3669-0801

鋼製床・壁材、専用簡易  
手柵など詳細はコチラ

